

第8章 環境の保全のための措置

第8章 環境の保全のための措置

本事業の計画段階で配慮した環境保全措置及び調査・予測の結果に基づき講じる環境保全措置は、以下のとおりである。

8-1 大気質

施工時

8-1-1 建設機械稼働による粉じん等

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・粉じんの飛散を防止するために、適宜、散水を行う。
- ・場内に掘削土等を仮置きする場合は、必要に応じて粉じんの飛散を防止するためにシート等で養生する。
- ・掘削工事にあたっては、飛散防止対策として、敷地境界周辺に防じんネットや仮囲い等を設置し、必要に応じて散水、シート掛け、覆土等を行う。

8-1-2 工事用車両による沿道大気質

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・工事用車両の通行は、一般車両の多い通勤時間帯などを避けるように努める。
- ・工事用車両は、可能な限り最新排出ガス規制適合車を使用する。
- ・不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底する。
- ・工事用車両の整備、点検を徹底する。
- ・通勤車両台数を減らすために、工事業者に対して工事作業用通勤車両の相乗りを励行する。

供用時

8-1-3 廃棄物焼却施設稼働による大気質

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・排出ガスは、最新の排出ガス処理技術により、法規制よりも厳しい目標値を満足させて排出する。

- ・硫黄酸化物及び塩化水素は、消石灰等を吹き込む乾式有害ガス除去方式とバグフィルタ（ろ過式集じん器）により除去する。
 - ・窒素酸化物は、可能な限り燃焼制御法による管理を行うとともに、触媒脱硝装置により除去する。
 - ・ばいじんは、バグフィルタ（ろ過式集じん器）により除去する。
 - ・ダイオキシン類は、燃焼温度、ガス滞留時間等についてダイオキシン類の発生を防止する条件を設定のうえ管理を十分に行い、安定燃焼の確保に努めることを基本とするほか、活性炭への吸着により除去する乾式吸着法により発生を抑制する。
- 【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】
- ・ごみ質の均一化を図り適正負荷による安定した燃焼を維持することで、大気汚染物質の低減に努める。

8-2 水 質

施工時 工事の実施による水質

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・工事中における雨水等による濁水を防止するため、敷地内全ての雨水を集水のうえ、一旦、沈砂池に貯留する。
- ・沈砂池に貯留した雨水は、排水処理設備を設けて適切に処理した後に、海域へ放流する。
なお、対象事業実施区域は最終処分場跡地であることから「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」に則り、最終処分場からの施設排水に係る基準を遵守することとし、中和処理、凝集沈殿処理等を行うことが可能な設備を設ける。
- ・放流口にpH計、濁度計を設置して水素イオン濃度(pH)、濁度を測定し、問題のないことを確認する。
- ・堆砂容量を確保するために、必要に応じて沈砂池の堆砂を除去する。
- ・工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制する。
- ・台風、集中豪雨等が予想される場合には、造成工事を行わない。
- ・台風、集中豪雨等が予想される場合には、必要に応じて貯留量を一時的に確保するための仮側溝や仮沈砂池の設置、造成面や法面へのシート、土嚢による養生等の対策を講じる。

8-3 騒音

施工時

8-3-1 建設機械稼働による騒音

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・建設機械は、低騒音型の建設機械を使用する。
- ・周辺地域への騒音伝搬を防止するために、計画地の周辺に仮囲い（高さ3.0m）を設置する。

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・発生騒音が極力少なくなる施工方法や手順を十分に検討する。
- ・建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努める。
- ・建設機械の整備、点検を徹底する。
- ・不要なアイドリングや空ぶかしをしないよう徹底する。

8-3-2 工事用車両による道路交通騒音

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・工事用車両の通行は、一般車両の多い通勤時間帯などを避けるように努める。
- ・不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底する。
- ・工事用車両の整備、点検を徹底する。
- ・通勤車両台数を減らすために、工事業者に対して工事作業用通勤車両の相乗りを励行する。

供用時

8-3-3 廃棄物焼却施設稼働による騒音

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・騒音の伝搬を防止するために、処理設備は建屋内に配置する。
- ・外部への騒音の漏洩防止のために、工場棟の出入口にはシャッターを設けて可能な限り閉止する。

- ・空気圧縮機、誘引通風機、蒸気タービン等は、内側に吸音処理を施した独立部屋に収納する。

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・設備機器類は、低騒音型機器の採用に努める。
- ・設備機器の整備、点検を徹底する。

8-4 振 動

施工時

8-4-1 建設機械稼働による振動

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・発生振動が極力少なくなる施工方法や手順を十分に検討する。
- ・建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努める。
- ・建設機械の整備、点検を徹底する。

8-4-2 工事用車両による道路交通振動

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・工事用車両の通行は、一般車両の多い通勤時間帯などを避けるように努める。
- ・急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底する。
- ・工事用車両の整備、点検を徹底する。
- ・通勤車両台数を減らすために、工事業者に対して工事作業用通勤車両の相乗りを励行する。

供用時

8-4-3 廃棄物焼却施設稼働による振動

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・誘引通風機、蒸気タービン等の振動の著しい設備機器は、基礎構造を強固にする。

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・設備機器類は、低振動型機器の採用に努める。
- ・主要な振動発生機器には、必要に応じて基礎部への防振ゴム設置等の防振対策を施す。

- ・設備機器の整備、点検を徹底する。

8-5 悪 臭

供 用 時 廃棄物焼却施設稼働による悪臭

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・廃棄物の保管場所、処理設備を建屋内に配置する。
- ・搬入や荷下ろしの作業を屋内で行う。
- ・プラットホームの出入口には、エアカーテン等を設置し、搬出入時以外は可能な限りシャッターで外部と遮断する。
- ・ごみピット、プラットホームは、常に負圧を保つことで外部への臭気の漏洩を防ぐ。
- ・ごみピットの空気を焼却炉の燃焼用空気として炉内に吹き込むことで、燃焼による臭気成分の分解を行う。
- ・休炉時の悪臭防止対策として、活性炭を用いた脱臭装置を設置する。
- ・プラットホーム及びごみピットには、休炉時など必要に応じて消臭剤を噴霧する。

8-6 土 壌

施 工 時 工事の実施による土壌

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・土地の改変に伴う埋設廃棄物による水平方向及び鉛直方向の影響を防止するため、鉛直遮水工及びケーシングを用いた杭工法を組合せた施工を行う。
- ・工事中における雨水による濁水を防止するため、敷地内全ての雨水を沈砂池に集水し、排水処理設備を設けて適切に処理した後に、海域へ放流する。
- ・場外搬出にあたっては、土壌汚染対策法に基づき適正に対応する。

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・掘削工事にあたっては、飛散防止対策として、敷地境界周辺に防じんネットや仮囲い等を設置し、必要に応じて散水、シート掛け、覆土等を行う。
- ・仮置きした際の地下浸透を防止するため、必要に応じて遮水シート等による養生を行う。
- ・掘削した廃棄物等は、風雨等により飛散することがないように、ポリエチレン内袋付きフレキシブルコンテナバック等で保管する。
- ・工事の実施に伴う影響を監視するため、地下埋設廃棄物層の外周部にある既存井戸付近

において地下水質のモニタリングを行う。

- ・工事の実施にあたっては事前調査を行い、可燃性ガス等対策を講ずる必要があると判断した場合は、「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」に基づき作業環境濃度の監視や換気対策を行う。

8-7 植 物

施工時 及び 供用時 工事の実施及び廃棄物焼却施設の存在による植物

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・「船橋市環境共生まちづくり条例」の緑地確保基準では、工業専用地域の工場（500m²以上）に対する緑地設置面積は12%以上と定められており、本事業ではこれに準じた緑化に努める。
- ・工場棟等の建築物の周りや敷地外周部に沿って緑地を確保することにより、景観面の配慮を行う。
- ・生育が良好な既存の樹木を極力保全する。
- ・植栽する樹種は、計画地の立地条件を考慮して適切な樹種の選定に努める。

8-8 動 物

施工時 及び 供用時 工事の実施及び廃棄物焼却施設の存在による動物

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・「船橋市環境共生まちづくり条例」の緑地確保基準では、工業専用地域の工場（500m²以上）に対する緑地設置面積は12%以上と定められており、本事業ではこれに準じた緑化に努める。
- ・工場棟等の建築物の周りや敷地外周部に沿って緑地を確保する。
- ・生育が良好な既存の樹木を極力保全する。
- ・植栽する樹種は、計画地の立地条件を考慮して適切な樹種の選定に努める。

8-9 景 観

供 用 時 廃棄物焼却施設の存在による景観

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・施設計画にあたって“水辺への眺望、水辺からの眺望など水辺を強く意識した色調・構

造とする”、“富士見百景の景観に映える色調・構造とする”、“敷地の緑化に努め、水辺と緑が融和する構造とする”のデザイン方針を設定のうえ検討を行う。

【予測の結果を受けてその対策として講じる環境保全措置】

- ・新工場の色彩は、工業地景観の中に一部自然景観や水辺景観が組み合わさった周辺地域の景観特性との調和を図るため、彩度の低い黄赤系の色彩を用いて、落ち着いた色彩とする。
- ・ふなばし三番瀬海浜公園内の新工場を見通すことのできる場所に対し、現況と比較して建屋や煙突までの距離が短くなることから、圧迫感を軽減するため、建物の低層部に着色し、敷地境界付近で緑化する。
- ・敷地境界付近に設置する柵について、周辺地域との調和の図られる色彩とする。

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・敷地境界付近に設置する柵についてのセットバックを検討する。
- ・圧迫感を軽減するため、長大な壁面が生じないデザインを検討する。

8-10 人と自然との触れ合いの活動の場

施工時 及び 供用時 工事の実施及び廃棄物焼却施設の存在等による

人と自然との触れ合いの活動の場

〔施工時〕

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・建設機械の稼働による粉じん、騒音、振動等の影響を低減するため、各種環境保全措置を講じる（詳細については、各予測項目の環境保全措置の項を参照）。
- ・工事用車両については、車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行い、公園の利用が多くなると想定される場合には、来園車両の多い時間帯などを避けるように努める。

〔供用時〕

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・建物のデザインについては、周辺地域の景観特性と調和したものとなるよう配慮する。
- ・施設の稼働による大気質、騒音、振動等の影響を低減するため、各種環境保全措置を実施する（詳細については、各予測項目の環境保全措置の項を参照）。

8-11 廃棄物

施工時 及び 供用時 工事の実施及び廃棄物焼却施設稼働による廃棄物

〔施工時〕

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・ 廃棄物の排出量を抑制するため、廃棄物の分別排出を徹底し、金属くずについては有効利用する。
- ・ 特定建設資材廃棄物については、種類ごとの分別排出を徹底し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律により産業廃棄物の収集運搬業や処分業の許可を受けた業者に委託し、再資源化施設に搬出して処理を行う。
- ・ 特定建設資材以外の廃棄物についても、再資源化が可能なものについては、できる限り分別解体等を実施して再資源化を行う。
- ・ 再資源化等が困難な廃棄物を最終処分する場合は、安定型処分場で処分すべき品目及び管理型処分場で処分すべき品目を分別して適正に処理する。
- ・ 埋設廃棄物は、ポリエチレン内袋付きフレキシブルコンテナバック等で保管し、風雨等により飛散することがないように仮置きする。また、仮置きした際の地下浸透を防止するため、必要に応じて遮水シート等による養生を行う。

〔供用時〕

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・ 焼却灰及び焼却飛灰は、他所において再資源化のうえ有効利用する。
- ・ 焼却鉄は、製鉄等原料として有効利用する。

8-12 残 土

施 工 時 工事の実施による残土

本市の「建設発生土の取扱について」（平成21年11月、船橋市公共事業コスト縮減推進委員会）に基づいて、次のような措置を講じる計画である。

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・ 発生土は、盛土や埋戻しなどにより、できる限り再利用する造成計画とし、残土量の抑制を図る。
- ・ 場外搬出にあたっては、土壌の分析を行い、汚染が確認された場合は汚染土壌として適

正に処分する。

- ・残土は、50km範囲内の他の工事現場（本市発注工事優先）へ搬出し再利用する。
- ・埋戻土は、50km範囲内の他の工事現場（本市発注工事優先）から搬入し再利用する。
- ・50km範囲内の他の工事現場での残土の再利用ができない場合は、建設副産物情報センター運営の「建設発生土情報交換システム」を活用し再利用に努め、それでも他の工事現場で再利用できない残土は、処分地を指定して適正処分する。

8-13 温室効果ガス等

供用時 廃棄物焼却施設稼働による温室効果ガス等

【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】

- ・ごみの焼却により発生する廃熱をボイラで回収し、発生した蒸気を用いてタービン発電機により発電して、場内電力に使用し、購入電力消費による温室効果ガスの発生を抑制する。
- ・余剰電力は売電し、電力会社等の化石燃料による発電量の削減に貢献する。

【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】

- ・廃熱は、発電のほか場内の給湯等にも利用し、燃料使用による温室効果ガスの発生を抑制する。
- ・廃棄物焼却施設の設備機器は省エネルギー型のものを積極的に採用する。
- ・管理棟の照明や空調設備は省エネルギー型のものを積極的に採用する。

第9章 監視計画

第9章 監視計画

9-1 事後調査を行うこととした理由

事後調査は、予測の不確実性の程度が大きい場合や効果に係る知見が不十分な環境保全措置を講じる場合などについて、本事業に係る工事の実施中及び供用開始後の環境の状況を把握し、環境への著しい影響が確認された場合またはそのおそれがある場合には、必要な措置を講ずることで環境影響を回避し、または低減することを目的として実施する。

なお、事後調査は、「千葉県環境影響評価条例」（平成10年6月19日条例第26号）第39条（事後調査等の実施）に基づく調査であり、事後調査とは別に事業者が自主的に行う監視としてモニタリング調査を実施する計画である。

9-2 事後調査の項目及び方法

9-2-1 施工時

施工時における事後調査の項目及び方法等は、表9-2.1に示すとおりである。

表 9-2.1(1) 施工時における事後調査の項目及び方法等

| 事後調査の項目 | | | 事後調査の手法等 | | |
|---------|----------|---------------------------------------|---------------------------|--|------------------------------------|
| 環境要素 | 活動要素 | 対象項目 | 調査地点等 | 調査の手法 | 調査期間 |
| 大気質 | 建設機械の稼働 | 粉じん (降下ばいじん) | 保全対象立地位置を勘案して南側敷地境界付近の1地点 | 重量法（ダストジャーによる採取）による現地調査 | 施工期間において影響が最大となる工種の実施期間内の1ヵ月 |
| 水質 | 工事の実施 | 工事中の海域への放流排水に係る計画目標値設定項目 (2-37頁参照) | 排水処理設備放流口 | 「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」第三条の規定に基づき定める水質検査の方法による現地調査 | 1回/3ヵ月（掘削工事期間及び工事完了後2年間） |
| | | 濁度及び水素イオン濃度 | 排水処理設備放流口 | 濁度計及びpH計による現地での調査 ^{注)} | 施工期間において影響が大きくなると想定される時期の強降雨時 |
| 騒音 | 建設機械の稼働 | 騒音レベル (L_{A5}) | 保全対象立地位置を勘案して南側敷地境界付近の1地点 | 日本工業規格「環境騒音の表示・測定方法（JIS Z 8731）」に準拠した現地調査 | 施工期間において影響が最大となる時期の1日間（工事実施時間帯） |
| | 工事用車両の走行 | 騒音レベル (L_{Aeq}) | 現況調査を行った2地点 | 日本工業規格「環境騒音の表示・測定方法（JIS Z 8731）」に準拠した現地調査 | 工事用車両の走行台数が最大となる時期の1日間（工事用車両走行時間帯） |
| 振動 | 建設機械の稼働 | 振動レベル (L_{10}) | 保全対象立地位置を勘案して南側敷地境界付近の1地点 | 日本工業規格「振動レベル測定方法（JIS Z 8735）」に準拠した現地調査 | 施工期間において影響が最大となる時期の1日間（工事実施時間帯） |
| | 工事用車両の走行 | 振動レベル (L_{10}) | 現況調査を行った2地点 | 日本工業規格「振動レベル測定方法（JIS Z 8735）」に準拠した現地調査 | 工事用車両の走行台数が最大となる時期の1日間（工事用車両走行時間帯） |

注) 工事の実施前に濁度と浮遊物質濃度との相関を実験により把握のうえ調査する。

表 9-2.1(2) 施工時における事後調査の項目及び方法等

| 事後調査の項目 | | | 事後調査の手法等 | | |
|---------------|-------|------------------------------|---|--|----------------------------------|
| 環境要素 | 活動要素 | 対象項目 | 調査地点等 | 調査の手法 | 調査期間 |
| 土 壤 (地下水質) | 工事の実施 | 環境基準項目 (健康項目) | 現況調査を行った 観測井4地点の第 一帯水層及び第二 帯水層 (図9-2.1、2参照) | 「地下水の水質汚濁に係る環 境基準について(平成9年環境 庁告示第10号)」に定める方法 | 1回/6ヵ月(工事期 間全体及び工事完了 後2年間) |
| | | 鉛、砒素、 ダイオキシン類 | | 「地下水の水質汚濁に係る環 境基準について(平成9年環境 庁告示第10号)」及び「ダイオ キシン類による大気汚染、 水質の汚濁(水底の底質の汚 染を含む。)及び土壌の汚染に 係る環境基準について(平成 11年環境庁告示第68号)」に 定める方法 | 1回/3ヵ月(掘削工 事期間及び工事完了 後2年間) |
| | | 水素イオン濃度 (pH) | | 日本工業規格「工場排水試験 方法(JIS K 0102)」及び「工 業用水試験方法(JIS K 0101)」 に準拠した方法 | 1回/月(工事期間全 体及び工事完了後2 年間) |
| | | 電気伝導度 (EC) | | 日本工業規格「電気伝導率測 定方法(JIS K 0130)」に準拠 した方法 | |
| | | 塩化物イオン (Cl ⁻) | | 日本工業規格「工場排水試験 方法(JIS K 0102)」及び「工 業用水試験方法(JIS K 0101)」 に準拠した方法 | |
| | | 浮遊物質量 (SS) | | 「水質汚濁に係る環境基準に ついて(昭和46年環境庁告示 第59号)」に準拠した方法 | |

9-2-2 供用時

供用時における事後調査の項目及び方法等は、表9-2.2に示すとおりである。

表 9-2.2 供用時における事後調査の項目及び方法等

| 事後調査の項目 | | | 事後調査の手法等 | | |
|-------------------|-------|--------------------------------------|--|---|-----------------------------|
| 環境要素 | 活動要素 | 対象項目 | 調査地点等 | 調査の手法 | 調査期間 |
| 大気質 | 施設の稼働 | 二酸化硫黄 窒素酸化物 浮遊粒子状物質 ダイオキシン類 | 現況把握を行った一 般環境大気測定局 (船橋印内、船橋若松、 船橋南本町、市川二 俣、市川行徳駅前、習 志野谷津) | 一般環境大気測定局 のデータ収集による 文献その他資料調査 | 事業活動が定常となった 時期から1年間 |
| 騒 音 ^{注)} | 施設の稼働 | 騒音レベル (最大稼働時の 定常騒音) | 対象事業実施区域を 取り囲む敷地境界付 近の4地点 | 日本工業規格「環境騒 音の表示・測定方法 (JIS Z 8731)」に準 拠した現地調査 | 事業活動が定常となった 時期の1日間(24時間) |
| 振 動 ^{注)} | 施設の稼働 | 振動レベル (最大稼働時の 定常振動) | 対象事業実施区域を 取り囲む敷地境界付 近の4地点 | 日本工業規格「振動レ ベル測定方法(JIS Z 8735)」に準拠した現 地調査 | 事業活動が定常となった 時期の1日間(24時間) |
| 悪 臭 | 施設の稼働 | 特定悪臭物質(22 物質) | 風下側敷地境界1地 点 | 「特定悪臭物質の測 定の方法(昭和47年 環境庁告示第9号)」に 準拠した現地調査 | 事業活動が定常となった 時期の夏季に1回 |
| | | 臭気濃度 | 特定悪臭物質の調査 地点と同一地点 | 三点比較式臭袋法に よる現地調査 | 事業活動が定常となった 時期の夏季に1回 |

注) 騒音及び振動については、暗騒音が大きく計画目標値との対比が難しい場合には、測定結果の解析等に基づき評価を行う。

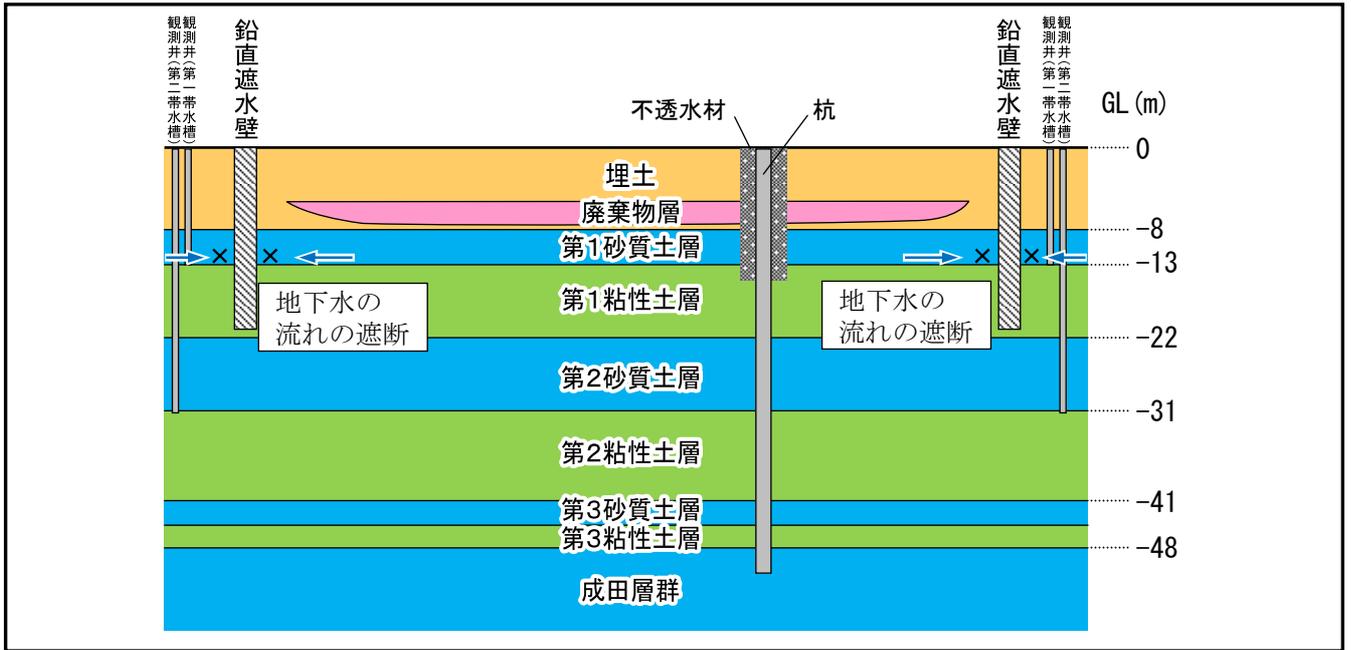


図9-2.1 地下水質調査位置

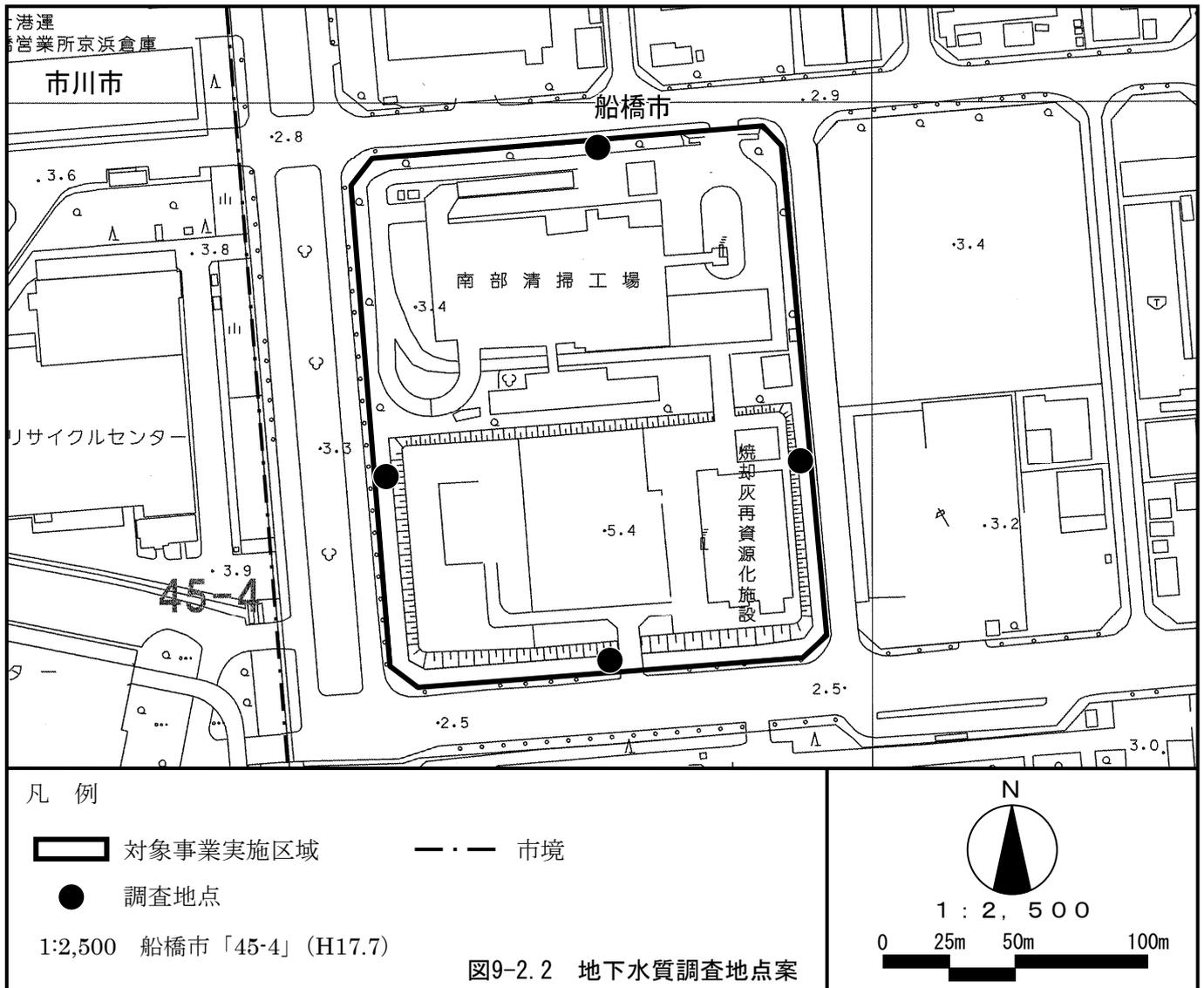


図9-2.2 地下水質調査地点案

9-3 モニタリング調査の項目及び方法

9-3-1 施工時

施工時におけるモニタリング調査の項目及び方法等は、表9-3.1に示すとおりである。

表 9-3.1 施工時におけるモニタリングの項目及び方法等

| モニタリングの項目 | | | モニタリングの手法等 | | |
|-----------|-------|-------------|------------|-------------------------------------|---------------------------|
| 環境要素 | 活動要素 | 対象項目 | 調査地点等 | 調査の手法 | 調査期間 |
| 水 質 | 工事の実施 | 濁度及び水素イオン濃度 | 排水処理設備放流口 | 濁度計及びpH計による現地でのモニタリング ^{注)} | 施工期間において影響が大きくなると想定される降雨時 |

注) 工事の実施前に濁度と浮遊物質濃度との相関を実験により把握のうえモニタリングする。

9-3-2 供用時

供用時におけるモニタリング調査の項目及び方法等は、表9-3.2に示すとおりである。

表 9-3.2 供用時におけるモニタリングの項目及び方法等

| 事後調査の項目 | | | モニタリングの手法等 | | |
|---------|-------|---|------------|------------------------|--------------------------|
| 環境要素 | 活動要素 | 対象項目 | 調査地点等 | 調査の手法 | 調査期間 |
| 大気質 | 施設の稼働 | 硫黄酸化物 窒素酸化物 一酸化炭素 ばいじん 塩化水素 水銀 | 煙突 | 自動測定によるモニタリング | 施設供用後に継続監視 |
| | | 排出ガス量 排出ガス温度 | 煙突 | 自動測定によるモニタリング | 施設供用後に継続監視 |
| | | 硫黄酸化物 窒素酸化物 ばいじん 塩化水素 | 煙突 | 「大気汚染防止法」に基づく測定 | 施設供用後に2月を超えない作業期間ごとに1回以上 |
| | | ダイオキシン類 | 煙突 | 「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づく調査 | 施設供用後に毎年1回以上 |

9-4 環境影響の程度が大きいことが明らかとなった場合の方針

事後調査の結果、環境への著しい影響が確認された場合またはそのおそれがある場合には、関係機関と連絡をとり、必要な措置を講ずるものとする。

9-5 事後調査の結果の公表の方法

事後調査の結果については、事後調査の進捗状況に応じて、船橋市のホームページにおいて公表する。

9-6 事後調査の実施主体等

本事業の事業方式は、DBO方式とする予定であることから、設計・建設、運営を一括して民間に発注することとなり、事後調査については事業者である船橋市の指導のもと、受注した民間業者が実施するものとする。また、施設の運営に関連する供用後の煙突排出ガスのモニタリングなどについては、受注した民間業者により行うものとし、発注の際の仕様において求めるものとする。

第10章 環境影響の総合的な評価

第10章 環境影響の総合的な評価

南部清掃工場は、施設の稼働を平成元年に開始し、施設の老朽化が進み、修繕費がかさむなど、効率的な処理が困難になってきており、工場の建替えを早急を実施することが必要となっている。本事業は、廃棄物焼却施設に求められる高次の安全性、安定性や公害防止機能、効率的な廃棄物処理機能を確保した新たな焼却施設の整備を目的として、南部清掃工場の建替事業を行うものである。新たな南部清掃工場は、地域環境との調和や循環型社会への貢献などに配慮のうえ、平成32年度の供用開始を目指して事業を進めている。

本環境影響評価では、本事業による事業特性及び地域特性を勘案し、大気質、水質、騒音、振動、悪臭、土壌、植物、動物、景観、人と自然との触れ合いの活動の場、廃棄物、残土及び温室効果ガス等の13項目の環境要素を対象に計画段階での環境保全措置を勘案して調査、予測及び評価を行った。各環境要素の調査、予測及び評価の結果の概要は、表10-1に示すとおりである。

また、「第9章 監視計画」に記載のとおり的事後調査を実施し、本事業に係る工事の実施中及び供用開始後の環境の状況を把握のうえ、環境への著しい影響が確認された場合またはそのおそれがある場合には、必要な措置を講ずることで環境影響を回避し、または低減するものとしている。

今後は、本環境影響評価の結果を十分に認識のうえ、環境保全措置を確実に実行し、周辺地域の環境保全に配慮して事業を進める所存である。

以上のことから、本事業は、事業者の実行可能な範囲において対象事業の実施に伴う環境影響についてできる限り低減が図られたものと評価する。

| 環境保全措置 | 評価の結果 | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|-----------|--|----|---------|-------|--|---|------|------------------------------------|---------|------|------------------------------------|
| <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 粉じんの飛散を防止するために、適宜、散水を行う。 場内に掘削土等を仮置きする場合は、必要に応じて粉じんの飛散を防止するためにシート等で養生する。 掘削工事にあたっては、飛散防止対策として、敷地境界周辺に防じんネットや仮囲い等を設置し、必要に応じて散水、シート掛け、覆土等を行う。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>工事の実施にあたっては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価</p> <p>建設機械稼働による降下ばいじん量の予測結果の最大値は、南側敷地境界地点で2.1 t/km²/月（冬季）であり、整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="758 600 1422 757"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th>降下ばいじん量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粉じん</td> <td>「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」（平成11年、建設省）に示される降下ばいじんに係る参考値</td> <td>工事寄与の降下ばいじん量が10 t /km²/月以下</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 整合を図るべき基準 | | 根拠 | 降下ばいじん量 | 粉じん | 「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」（平成11年、建設省）に示される降下ばいじんに係る参考値 | 工事寄与の降下ばいじん量が10 t /km ² /月以下 | | | | | |
| 項目 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 降下ばいじん量 | | | | | | | | | | | | |
| 粉じん | 「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」（平成11年、建設省）に示される降下ばいじんに係る参考値 | 工事寄与の降下ばいじん量が10 t /km ² /月以下 | | | | | | | | | | | | |
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事用車両の通行は、一般車両の多い通勤時間帯などを避けるように努める。 工事用車両は、可能な限り最新排出ガス規制適合車を使用する。 不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底する。 工事用車両の整備、点検を徹底する。 通勤車両台数を減らすために、工事業者に対して工事作業用通勤車両の相乗りを励行する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>工事の実施にあたっては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価</p> <p>工事用車両による沿道大気質濃度の予測結果の最大値は、二酸化窒素の日平均値の年間98%値が0.043ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値が0.057mg/m³であり、二酸化窒素について千葉県環境目標値を超過するものの本事業の付加率は0.08～0.17%と小さく、いずれの項目も環境基準を満足していることから、整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="758 1368 1422 1630"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th>基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">二酸化窒素</td> <td>千葉県環境目標値</td> <td>日平均値の98%値が0.04ppm以下</td> </tr> <tr> <td>環境基準</td> <td>1時間値の日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>環境基準</td> <td>1時間値の日平均値が0.10mg/m³以下</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 整合を図るべき基準 | | 根拠 | 基準 | 二酸化窒素 | 千葉県環境目標値 | 日平均値の98%値が0.04ppm以下 | 環境基準 | 1時間値の日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下 | 浮遊粒子状物質 | 環境基準 | 1時間値の日平均値が0.10mg/m ³ 以下 |
| 項目 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 基準 | | | | | | | | | | | | |
| 二酸化窒素 | 千葉県環境目標値 | 日平均値の98%値が0.04ppm以下 | | | | | | | | | | | | |
| | 環境基準 | 1時間値の日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下 | | | | | | | | | | | | |
| 浮遊粒子状物質 | 環境基準 | 1時間値の日平均値が0.10mg/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | |

表 10-1 環境影響評価結果の概要(2/12)

| 項目 | 調査の結果 | 活動要素 | 予測の結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|--|---------------------|------------------------------------|----------|----------|----------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|------|-------|----------|----------|----------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|------|-------|----------|----------|----------|---------|---------|-----------|----|---------|--------|-----------|----|---------|---------|-----------|----|---------|---------|-----------|------|-------|----------|----------|----------|--------|--------|--------|----|--------|--------|--------|----|--------|--------|--------|----|--------|--------|--------|------|-----------|----------|------|----|-------|----|-------|----|-------|------------------|---|----|----------|---------------------|------------------|------------|----------|-------|---------------------|------------|----------|-------|-----------------------|-----------------------------|----------|-------|------------------------------------|--------------------------|----------|---|----------------------------|---------------------------------|----------|---|----------------------------------|----|-----|-----|-------|------------|--|--------|---------------|------------|--|--------|-------------------|-----------------------------|--|--------|-------------------------------|-----------|--|--------|----------------|
| 大気質 | <p><環境大気質(つづき)></p> <p>(2) 二酸化窒素 各地点の年間平均値は0.014~0.017ppmであり、測定期間中に環境基準値を超える値はみられなかった。また、各地点とも冬季に県環境目標値を超える値がみられた。</p> <p>二酸化窒素現地調査結果(4季調査、単位: ppm)</p> <table border="1" data-bbox="217 506 762 667"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年間平均値</th> <th>1時間値の最高値</th> <th>日平均値の最高値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象事業実施区域</td> <td>0.017</td> <td>0.070</td> <td>0.045</td> </tr> <tr> <td>北側</td> <td>0.014</td> <td>0.062</td> <td>0.044</td> </tr> <tr> <td>東側</td> <td>0.017</td> <td>0.070</td> <td>0.047</td> </tr> <tr> <td>西側</td> <td>0.017</td> <td>0.065</td> <td>0.047</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 浮遊粒子状物質 各地点の年間平均値は0.018~0.024mg/m³であり、測定期間中に環境基準値を超える値はみられなかった。</p> <p>浮遊粒子状物質現地調査結果(4季調査: 単位: mg/m³)</p> <table border="1" data-bbox="217 853 762 1014"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年間平均値</th> <th>1時間値の最高値</th> <th>日平均値の最高値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象事業実施区域</td> <td>0.023</td> <td>0.072</td> <td>0.045</td> </tr> <tr> <td>北側</td> <td>0.020</td> <td>0.057</td> <td>0.033</td> </tr> <tr> <td>東側</td> <td>0.018</td> <td>0.061</td> <td>0.045</td> </tr> <tr> <td>西側</td> <td>0.024</td> <td>0.073</td> <td>0.052</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 塩化水素 測定期間中に目標環境濃度を超える値はみられなかった。</p> <p>塩化水素現地調査結果(4季調査、単位: ppm)</p> <table border="1" data-bbox="204 1173 775 1335"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年間平均値</th> <th>日平均値の最高値</th> <th>日平均値の最小値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象事業実施区域</td> <td>0.00030</td> <td>0.00094</td> <td>0.00002未満</td> </tr> <tr> <td>北側</td> <td>0.00028</td> <td>0.0011</td> <td>0.00002未満</td> </tr> <tr> <td>東側</td> <td>0.00019</td> <td>0.00067</td> <td>0.00002未満</td> </tr> <tr> <td>西側</td> <td>0.00026</td> <td>0.00098</td> <td>0.00002未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 水銀 測定期間中に指針値を超える値はみられなかった。</p> <p>水銀現地調査結果(4季調査、単位: μgHg/m³)</p> <table border="1" data-bbox="217 1500 762 1662"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年間平均値</th> <th>日平均値の最高値</th> <th>日平均値の最小値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象事業実施区域</td> <td>0.0028</td> <td>0.0092</td> <td>0.0018</td> </tr> <tr> <td>北側</td> <td>0.0023</td> <td>0.0029</td> <td>0.0018</td> </tr> <tr> <td>東側</td> <td>0.0027</td> <td>0.0050</td> <td>0.0017</td> </tr> <tr> <td>西側</td> <td>0.0023</td> <td>0.0032</td> <td>0.0017</td> </tr> </tbody> </table> <p>(6) ダイオキシン類 各地点の毒性等量の年間平均値は0.032~0.18pg-TEQ/m³であり、全ての地点で環境基準値を下回っていた。</p> <p>ダイオキシン類現地調査結果(4季調査、単位: pg-TEQ/m³)</p> <table border="1" data-bbox="280 1883 699 2045"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>毒性等量年間平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象事業実施区域</td> <td>0.18</td> </tr> <tr> <td>北側</td> <td>0.043</td> </tr> <tr> <td>東側</td> <td>0.032</td> </tr> <tr> <td>西側</td> <td>0.033</td> </tr> </tbody> </table> | 調査地点 | 年間平均値 | 1時間値の最高値 | 日平均値の最高値 | 対象事業実施区域 | 0.017 | 0.070 | 0.045 | 北側 | 0.014 | 0.062 | 0.044 | 東側 | 0.017 | 0.070 | 0.047 | 西側 | 0.017 | 0.065 | 0.047 | 調査地点 | 年間平均値 | 1時間値の最高値 | 日平均値の最高値 | 対象事業実施区域 | 0.023 | 0.072 | 0.045 | 北側 | 0.020 | 0.057 | 0.033 | 東側 | 0.018 | 0.061 | 0.045 | 西側 | 0.024 | 0.073 | 0.052 | 調査地点 | 年間平均値 | 日平均値の最高値 | 日平均値の最小値 | 対象事業実施区域 | 0.00030 | 0.00094 | 0.00002未満 | 北側 | 0.00028 | 0.0011 | 0.00002未満 | 東側 | 0.00019 | 0.00067 | 0.00002未満 | 西側 | 0.00026 | 0.00098 | 0.00002未満 | 調査地点 | 年間平均値 | 日平均値の最高値 | 日平均値の最小値 | 対象事業実施区域 | 0.0028 | 0.0092 | 0.0018 | 北側 | 0.0023 | 0.0029 | 0.0018 | 東側 | 0.0027 | 0.0050 | 0.0017 | 西側 | 0.0023 | 0.0032 | 0.0017 | 調査地点 | 毒性等量年間平均値 | 対象事業実施区域 | 0.18 | 北側 | 0.043 | 東側 | 0.032 | 西側 | 0.033 | 廃棄物焼却施設稼働 供用時 | <p><長期平均濃度></p> <p>廃棄物焼却施設稼働による大気質の年平均値及び日平均値の年間98%値(または2%除外値)の予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>二酸化硫黄の日平均値の2%除外値の最大値は0.004ppm、二酸化窒素の日平均値の年間98%値の最大値は0.040ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値の最大値は0.056mg/m³、水銀の環境濃度は0.002952μgHg/m³、ダイオキシン類の年平均値は0.180152pg-TEQ/m³であり、千葉県環境目標値及び環境基準等を満足するものと予測する。</p> <p>廃棄物焼却施設稼働による大気質の予測結果(長期平均濃度)</p> <table border="1" data-bbox="887 689 1481 1081"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>年平均値予測結果</th> <th>日平均値の年間98%値または2%除外値</th> <th>千葉県環境目標値または環境基準等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄(ppm)</td> <td>0.001061</td> <td>0.004</td> <td>1時間値の日平均値が0.04ppm以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素(ppm)</td> <td>0.018046</td> <td>0.040</td> <td>日平均値の年間98%値が0.04ppm以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質(mg/m³)</td> <td>0.023030</td> <td>0.056</td> <td>1時間値の日平均値が0.10mg/m³以下</td> </tr> <tr> <td>水銀(μgHg/m³)</td> <td>0.002952</td> <td>—</td> <td>0.04μgHg/m³以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類(pg-TEQ/m³)</td> <td>0.180152</td> <td>—</td> <td>年平均値が0.6pg-TEQ/m³以下</td> </tr> </tbody> </table> <p><短期高濃度></p> <p>廃棄物焼却施設稼働による大気質の短期高濃度の予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>煙突排出ガスにより周辺環境への高濃度の影響が想定される各条件のうち浮遊粒子状物質を除き、接地逆転層崩壊時の予測結果が最大となり、二酸化硫黄が0.0124ppm、二酸化窒素が0.0890ppm、塩化水素が0.0055ppmであり、環境基準等を下回るものと予測する。また、浮遊粒子状物質については、ダウンウォッシュ時が最大となり0.1094mg/m³と環境基準等を下回るものと予測する。</p> <p>廃棄物焼却施設稼働による大気質の予測結果(短期高濃度)</p> <table border="1" data-bbox="916 1518 1453 1805"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>ケース</th> <th>最大値</th> <th>環境基準等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄(ppm)</td> <td></td> <td>0.0124</td> <td>1時間値が0.1ppm以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素(ppm)</td> <td></td> <td>0.0890</td> <td>1時間値が0.1~0.2ppm以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質(mg/m³)</td> <td></td> <td>0.1094</td> <td>1時間値が0.20mg/m³以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素(ppm)</td> <td></td> <td>0.0055</td> <td>1時間値が0.02ppm以下</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 年平均値予測結果 | 日平均値の年間98%値または2%除外値 | 千葉県環境目標値または環境基準等 | 二酸化硫黄(ppm) | 0.001061 | 0.004 | 1時間値の日平均値が0.04ppm以下 | 二酸化窒素(ppm) | 0.018046 | 0.040 | 日平均値の年間98%値が0.04ppm以下 | 浮遊粒子状物質(mg/m ³) | 0.023030 | 0.056 | 1時間値の日平均値が0.10mg/m ³ 以下 | 水銀(μgHg/m ³) | 0.002952 | — | 0.04μgHg/m ³ 以下 | ダイオキシン類(pg-TEQ/m ³) | 0.180152 | — | 年平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下 | 項目 | ケース | 最大値 | 環境基準等 | 二酸化硫黄(ppm) | | 0.0124 | 1時間値が0.1ppm以下 | 二酸化窒素(ppm) | | 0.0890 | 1時間値が0.1~0.2ppm以下 | 浮遊粒子状物質(mg/m ³) | | 0.1094 | 1時間値が0.20mg/m ³ 以下 | 塩化水素(ppm) | | 0.0055 | 1時間値が0.02ppm以下 |
| | 調査地点 | 年間平均値 | 1時間値の最高値 | 日平均値の最高値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 対象事業実施区域 | 0.017 | 0.070 | 0.045 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 北側 | 0.014 | 0.062 | 0.044 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 東側 | 0.017 | 0.070 | 0.047 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 西側 | 0.017 | 0.065 | 0.047 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査地点 | 年間平均値 | 1時間値の最高値 | 日平均値の最高値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業実施区域 | 0.023 | 0.072 | 0.045 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 北側 | 0.020 | 0.057 | 0.033 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東側 | 0.018 | 0.061 | 0.045 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 西側 | 0.024 | 0.073 | 0.052 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査地点 | 年間平均値 | 日平均値の最高値 | 日平均値の最小値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業実施区域 | 0.00030 | 0.00094 | 0.00002未満 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 北側 | 0.00028 | 0.0011 | 0.00002未満 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東側 | 0.00019 | 0.00067 | 0.00002未満 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 西側 | 0.00026 | 0.00098 | 0.00002未満 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査地点 | 年間平均値 | 日平均値の最高値 | 日平均値の最小値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業実施区域 | 0.0028 | 0.0092 | 0.0018 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 北側 | 0.0023 | 0.0029 | 0.0018 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東側 | 0.0027 | 0.0050 | 0.0017 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 西側 | 0.0023 | 0.0032 | 0.0017 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査地点 | 毒性等量年間平均値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業実施区域 | 0.18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 北側 | 0.043 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東側 | 0.032 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 西側 | 0.033 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 年平均値予測結果 | 日平均値の年間98%値または2%除外値 | 千葉県環境目標値または環境基準等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二酸化硫黄(ppm) | 0.001061 | 0.004 | 1時間値の日平均値が0.04ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二酸化窒素(ppm) | 0.018046 | 0.040 | 日平均値の年間98%値が0.04ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浮遊粒子状物質(mg/m ³) | 0.023030 | 0.056 | 1時間値の日平均値が0.10mg/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水銀(μgHg/m ³) | 0.002952 | — | 0.04μgHg/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ダイオキシン類(pg-TEQ/m ³) | 0.180152 | — | 年平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | ケース | 最大値 | 環境基準等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二酸化硫黄(ppm) | | 0.0124 | 1時間値が0.1ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二酸化窒素(ppm) | | 0.0890 | 1時間値が0.1~0.2ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浮遊粒子状物質(mg/m ³) | | 0.1094 | 1時間値が0.20mg/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 塩化水素(ppm) | | 0.0055 | 1時間値が0.02ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 環境保全措置 | 評価の結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|------------------------------------|-----------|--|----|----|-------|------|----------------|-------|----------|---------------------|---------|------|------------------------------------|----|---|----------------------------|---------|------|----------------------------------|----|-----------|--|----|----|-------|------|---------------|-------|---|-------------------|---------|------|-------------------------------|------|----------------------------------|----------------|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 排出ガスは、最新の排出ガス処理技術により、法規制よりも厳しい目標値を満足させて排出する。 硫黄酸化物及び塩化水素は、消石灰等を吹き込む乾式有害ガス除去方式とバグフィルタ（ろ過式集じん器）により除去する。 窒素酸化物は、可能な限り燃焼制御法による管理を行うとともに、触媒脱硝装置により除去する。 ばいじんは、バグフィルタ（ろ過式集じん器）により除去する。 ダイオキシン類は、燃焼温度、ガス滞留時間等についてダイオキシン類の発生を防止する条件を設定のうえ管理を十分に行い、安定燃焼の確保に努めることを基本とするほか、活性炭への吸着により除去する乾式吸着法により発生を抑制する。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ質の均一化を図り適正負荷による安定した燃焼を維持することで、大気汚染物質の低減に努める。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>新工場の供用に際しては、左記の環境保全措置を講じる計画である。また、ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素及びダイオキシン類については、既存工場と比較してより厳しい目標値を満足させて排出することにより、現況よりも大気環境への影響を低減させる計画である。以上のことから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価</p> <p><長期平均濃度></p> <p>廃棄物焼却施設稼働による大気質の長期平均濃度の最大着地濃度予測結果は、二酸化硫黄の日平均値の2%除外値が0.004ppm、二酸化窒素の日平均値の年間98%値が0.040ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値が0.056mg/m³、水銀の年平均値が0.002952μgHg/m³、ダイオキシン類の年平均値が0.180152pg-TEQ/m³であり、各項目について整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="710 801 1469 1205"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th>基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄</td> <td>環境基準</td> <td>日平均値が0.04ppm以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>千葉県環境目標値</td> <td>日平均値の98%値が0.04ppm以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>環境基準</td> <td>1時間値の日平均値が0.10mg/m³以下</td> </tr> <tr> <td>水銀</td> <td>環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値 (平成15年7月、中央環境審議会)</td> <td>0.04μgHg/m³以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類</td> <td>環境基準</td> <td>年平均値が0.6pg-TEQ/m³以下</td> </tr> </tbody> </table> <p><短期高濃度></p> <p>廃棄物焼却施設稼働による大気質の短期高濃度の予測結果は、煙突排出ガスにより周辺環境への高濃度の影響が想定される各条件のうち接地逆転層崩壊時が最大となり、二酸化硫黄が0.0124ppm、二酸化窒素が0.0890ppm、塩化水素が0.0055ppmであり、各項目について整合を図るべき基準を満足するものと評価する。また、浮遊粒子状物質については、ダウンウォッシュ時が最大となり0.1094mg/m³と整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="710 1525 1469 1854"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th>基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄</td> <td>環境基準</td> <td>1時間値が0.1ppm以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>二酸化窒素の人の健康影響に係る判定条件等について (昭和53年3月、中央公害対策審議会答申)</td> <td>1時間値が0.1~0.2ppm以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>環境基準</td> <td>1時間値が0.20mg/m³以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素</td> <td>環境庁大気保全局長通達 (昭和52年6月環大規第136号)</td> <td>1時間値が0.02ppm以下</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 整合を図るべき基準 | | 根拠 | 基準 | 二酸化硫黄 | 環境基準 | 日平均値が0.04ppm以下 | 二酸化窒素 | 千葉県環境目標値 | 日平均値の98%値が0.04ppm以下 | 浮遊粒子状物質 | 環境基準 | 1時間値の日平均値が0.10mg/m ³ 以下 | 水銀 | 環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値 (平成15年7月、中央環境審議会) | 0.04μgHg/m ³ 以下 | ダイオキシン類 | 環境基準 | 年平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下 | 項目 | 整合を図るべき基準 | | 根拠 | 基準 | 二酸化硫黄 | 環境基準 | 1時間値が0.1ppm以下 | 二酸化窒素 | 二酸化窒素の人の健康影響に係る判定条件等について (昭和53年3月、中央公害対策審議会答申) | 1時間値が0.1~0.2ppm以下 | 浮遊粒子状物質 | 環境基準 | 1時間値が0.20mg/m ³ 以下 | 塩化水素 | 環境庁大気保全局長通達 (昭和52年6月環大規第136号) | 1時間値が0.02ppm以下 |
| 項目 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二酸化硫黄 | 環境基準 | 日平均値が0.04ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二酸化窒素 | 千葉県環境目標値 | 日平均値の98%値が0.04ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浮遊粒子状物質 | 環境基準 | 1時間値の日平均値が0.10mg/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水銀 | 環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値 (平成15年7月、中央環境審議会) | 0.04μgHg/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ダイオキシン類 | 環境基準 | 年平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二酸化硫黄 | 環境基準 | 1時間値が0.1ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二酸化窒素 | 二酸化窒素の人の健康影響に係る判定条件等について (昭和53年3月、中央公害対策審議会答申) | 1時間値が0.1~0.2ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浮遊粒子状物質 | 環境基準 | 1時間値が0.20mg/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 塩化水素 | 環境庁大気保全局長通達 (昭和52年6月環大規第136号) | 1時間値が0.02ppm以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 10-1 環境影響評価結果の概要(3/12)

| 項目 | 調査の結果 | 活動要素 | 予測の結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|---|--------|---|------|------|-----------|----------|-------------------------|-------------|--------------|-----------|----------|-----------|---------|---------|----------|-----------|-----------|-----------|--------|---------|-----------|-------------|-----------|-----------|------------|-----------|---------|-----------|-------|------------|-------------|------------|--------------|---------|-----------------|-----------|----------------|---------|----------------|------------|--------------|------------|------|------------|------|------------|---------|-----------|------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|---------------|------------|------------|----------|----------|----------|-------|----------|-----------------------------|---------|--------------------------------|----------|-----------|---------|------|---------|-------|---------|---------|----------|------------|----------|--------|---------|---------|--------------|-------|-------------------------------|-------|------------------|-------|-----------------|
| 水質 | <p>海域（東京湾）における浮遊物質量(SS)の濃度は、4～10mg/Lであった。なお、海域については、浮遊物質量(SS)の環境基準は設定されていない。</p> <p>工事中の雨水の排水先は、対象事業実施区域の北側にある千葉港の葛南港区となる。周辺には食品、石油、化学工業、機械金属関連の企業が立地し、水深-6.5mの企業専岸壁を始め、公共の-2m～-10m岸壁が整備されている。また、二俣川（河川延長：2,064m）、海神川（河川延長：440m）が流入している。</p> <p>また、気象の状況は、過去10年間の平均をみると、年間平均降水量は1,487.3mm、最大日降水量は224.0mmとなっている。</p> | 工事の実施時 | <p>本事業の工事計画では、対象事業実施区域において、掘削工事や既存工場の解体・撤去等が予定されており、工事の実施に伴う土砂の掘削や裸地の出現等により降雨時の濁水の発生が考えられる。このため、工事中における雨水等による濁水を防止するため、敷地内全ての雨水を集水のうえ、一旦、沈砂池に貯留する。また、沈砂池に貯留した雨水は、排水処理設備を設けて適切に処理した後に、海域へ放流する。</p> <p>放流水質については、対象事業実施区域は最終処分場跡地であることから「最終処分場跡地地質変更に係る施行ガイドライン」に則り、最終処分場からの施設排水に係る基準以下で放流することとし、基準を満足するための適切な排水処理設備を設置する。また、工事中の管理としては、放流時に水素イオン濃度(pH)、濁度を測定し、問題のないことを確認する。</p> <p>さらに、工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制し、台風、集中豪雨等が予想される場合には工事を行わず、必要に応じて貯留量を一時的に確保するための仮側溝や仮沈砂池の設置、造成面や法面へのシート、土嚢による養生等の対策を講じる。</p> <p>以上のとおりの適切な濁水防止対策を施すことにより、本事業の工事の実施による公共用水域への濁水の影響は小さいものと予測する。</p> <p style="text-align: center;">工事中の海域への放流排水に係る計画目標値</p> <table border="1" data-bbox="890 1010 1477 2029"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>放流水質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルキル水銀化合物</td> <td>検出されないこと</td> </tr> <tr> <td>水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物</td> <td>0.005mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>カドミウム及びその化合物</td> <td>0.1mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>鉛及びその化合物</td> <td>0.1mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>有機リン化合物</td> <td>1mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>六価クロム化合物</td> <td>0.5mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>砒素及びその化合物</td> <td>0.1mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>シアン化合物</td> <td>1mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>ポリ塩化ビフェニル</td> <td>0.003mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>トリクロロエチレン</td> <td>0.3mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>テトラクロロエチレン</td> <td>0.1mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>ジクロロメタン</td> <td>0.2mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>四塩化炭素</td> <td>0.02mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>1,2-ジクロロエタン</td> <td>0.04mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>1,1-ジクロロエチレン</td> <td>1mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>シス-1,2-ジクロロエチレン</td> <td>0.4mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>1,1,1-トリクロロエタン</td> <td>3mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>1,1,2-トリクロロエタン</td> <td>0.06mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>1,3-ジクロロプロペン</td> <td>0.02mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>チウラム</td> <td>0.06mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>シマジン</td> <td>0.03mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>チオベンカルブ</td> <td>0.2mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>ベンゼン</td> <td>0.1mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>セレン及びその化合物</td> <td>0.1mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>1,4-ジオキサン</td> <td>0.5mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>水素イオン濃度（水素指数）</td> <td>5.0以上9.0以下</td> </tr> <tr> <td>生物化学的酸素要求量</td> <td>60mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>化学的酸素要求量</td> <td>90mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊物質量</td> <td>60mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>ノルマルヘキサン抽出物質含有量 （鉱油類含有量）</td> <td>5mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>ノルマルヘキサン抽出物質含有量 （動植物油脂類含有量）</td> <td>30mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>フェノール類含有量</td> <td>5mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>銅含有量</td> <td>3mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>亜鉛含有量</td> <td>2mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>溶解性鉄含有量</td> <td>10mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>溶解性マンガン含有量</td> <td>10mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>クロム含有量</td> <td>2mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類</td> <td>10pg-TEQ/L以下</td> </tr> <tr> <td>大腸菌群数</td> <td>日間平均3,000個/cm³以下</td> </tr> <tr> <td>窒素含有量</td> <td>20（日間平均60）mg/L以下</td> </tr> <tr> <td>リン含有量</td> <td>16（日間平均8）mg/L以下</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 放流水質 | アルキル水銀化合物 | 検出されないこと | 水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物 | 0.005mg/L以下 | カドミウム及びその化合物 | 0.1mg/L以下 | 鉛及びその化合物 | 0.1mg/L以下 | 有機リン化合物 | 1mg/L以下 | 六価クロム化合物 | 0.5mg/L以下 | 砒素及びその化合物 | 0.1mg/L以下 | シアン化合物 | 1mg/L以下 | ポリ塩化ビフェニル | 0.003mg/L以下 | トリクロロエチレン | 0.3mg/L以下 | テトラクロロエチレン | 0.1mg/L以下 | ジクロロメタン | 0.2mg/L以下 | 四塩化炭素 | 0.02mg/L以下 | 1,2-ジクロロエタン | 0.04mg/L以下 | 1,1-ジクロロエチレン | 1mg/L以下 | シス-1,2-ジクロロエチレン | 0.4mg/L以下 | 1,1,1-トリクロロエタン | 3mg/L以下 | 1,1,2-トリクロロエタン | 0.06mg/L以下 | 1,3-ジクロロプロペン | 0.02mg/L以下 | チウラム | 0.06mg/L以下 | シマジン | 0.03mg/L以下 | チオベンカルブ | 0.2mg/L以下 | ベンゼン | 0.1mg/L以下 | セレン及びその化合物 | 0.1mg/L以下 | 1,4-ジオキサン | 0.5mg/L以下 | 水素イオン濃度（水素指数） | 5.0以上9.0以下 | 生物化学的酸素要求量 | 60mg/L以下 | 化学的酸素要求量 | 90mg/L以下 | 浮遊物質量 | 60mg/L以下 | ノルマルヘキサン抽出物質含有量 （鉱油類含有量） | 5mg/L以下 | ノルマルヘキサン抽出物質含有量 （動植物油脂類含有量） | 30mg/L以下 | フェノール類含有量 | 5mg/L以下 | 銅含有量 | 3mg/L以下 | 亜鉛含有量 | 2mg/L以下 | 溶解性鉄含有量 | 10mg/L以下 | 溶解性マンガン含有量 | 10mg/L以下 | クロム含有量 | 2mg/L以下 | ダイオキシン類 | 10pg-TEQ/L以下 | 大腸菌群数 | 日間平均3,000個/cm ³ 以下 | 窒素含有量 | 20（日間平均60）mg/L以下 | リン含有量 | 16（日間平均8）mg/L以下 |
| | | | 項目 | 放流水質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アルキル水銀化合物 | 検出されないこと | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物 | 0.005mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カドミウム及びその化合物 | 0.1mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉛及びその化合物 | 0.1mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 有機リン化合物 | 1mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 六価クロム化合物 | 0.5mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 砒素及びその化合物 | 0.1mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| シアン化合物 | 1mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ポリ塩化ビフェニル | 0.003mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| トリクロロエチレン | 0.3mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テトラクロロエチレン | 0.1mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ジクロロメタン | 0.2mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 四塩化炭素 | 0.02mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.04mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1,1-ジクロロエチレン | 1mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | 0.4mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 3mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 0.06mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1,3-ジクロロプロペン | 0.02mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| チウラム | 0.06mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| シマジン | 0.03mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| チオベンカルブ | 0.2mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ベンゼン | 0.1mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| セレン及びその化合物 | 0.1mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1,4-ジオキサン | 0.5mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水素イオン濃度（水素指数） | 5.0以上9.0以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生物化学的酸素要求量 | 60mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 化学的酸素要求量 | 90mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浮遊物質量 | 60mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ノルマルヘキサン抽出物質含有量 （鉱油類含有量） | 5mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ノルマルヘキサン抽出物質含有量 （動植物油脂類含有量） | 30mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フェノール類含有量 | 5mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 銅含有量 | 3mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 亜鉛含有量 | 2mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 溶解性鉄含有量 | 10mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 溶解性マンガン含有量 | 10mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クロム含有量 | 2mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ダイオキシン類 | 10pg-TEQ/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大腸菌群数 | 日間平均3,000個/cm ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 窒素含有量 | 20（日間平均60）mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リン含有量 | 16（日間平均8）mg/L以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 環境保全措置 | 評価の結果 |
|---|---|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事中における雨水等による濁水を防止するため、敷地内全ての雨水を集水のうえ、一旦、沈砂池に貯留する。 ・ 沈砂池に貯留した雨水は、排水処理設備を設けて適切に処理した後に、海域へ放流する。なお、対象事業実施区域は最終処分場跡地であることから「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」に則り、最終処分場からの施設排水に係る基準を遵守することとし、中和処理、凝集沈殿処理等を行うことが可能な設備を設ける。 ・ 放流口にpH計、濁度計を設置して水素イオン濃度(pH)、濁度を測定し、問題のないことを確認する。 ・ 堆砂容量を確保するために、必要に応じて沈砂池の堆砂を除去する。 ・ 工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制する。 ・ 台風、集中豪雨等が予想される場合には、造成工事を行わない。 ・ 台風、集中豪雨等が予想される場合には、必要に応じて貯留量を一時的に確保するための仮側溝や仮沈砂池の設置、造成面や法面へのシート、土嚢による養生等の対策を講じる。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>工事の実施にあたっては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> |

表 10-1 環境影響評価結果の概要(4/12)

| 項目 | 調査の結果 | 活動要素 | 予測の結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------------------|---|--------------------------|-------------------|---------------|-----|--------------------------|------------------|-----|------|------|-----|------|------|-----|-------------------|------|------|------|----------|----|------|-----|---|----|---|----|-----------------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|------------------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|------------------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|----|-------------------|-----------------------------|--|---------------|---------------|-----|---------|-----|------|------|-----|------|------|-----|----------|-----|------|------|-----|------|------|--------|---|
| 騒音 | <p><環境騒音> 対象事業実施区域の敷地境界の4地点で実施した現地調査結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>環境騒音現地調査結果（等価騒音レベル） 単位：デシベル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="2">等価騒音レベル (L_{Aeq})</th> </tr> <tr> <th>昼間 (6~22時)</th> <th>夜間 (22~6時)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地点A</td> <td>63.5</td> <td>59.4</td> </tr> <tr> <td>地点B</td> <td>56.6</td> <td>50.5</td> </tr> <tr> <td>地点C</td> <td>62.5</td> <td>58.5</td> </tr> <tr> <td>地点D</td> <td>61.2</td> <td>55.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>環境騒音現地調査結果（時間率騒音レベル） 単位：デシベル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="4">時間率騒音レベル</th> </tr> <tr> <th>朝</th> <th>昼間</th> <th>夕</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">L_{A5}</td> <td>地点A</td> <td>65.3</td> <td>67.8</td> <td>69.5</td> <td>61.4</td> </tr> <tr> <td>地点B</td> <td>59.7</td> <td>60.7</td> <td>56.0</td> <td>53.0</td> </tr> <tr> <td>地点C</td> <td>67.7</td> <td>68.6</td> <td>65.0</td> <td>63.2</td> </tr> <tr> <td>地点D</td> <td>65.8</td> <td>66.8</td> <td>62.1</td> <td>58.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">L_{A50}</td> <td>地点A</td> <td>59.7</td> <td>60.2</td> <td>60.1</td> <td>56.0</td> </tr> <tr> <td>地点B</td> <td>53.9</td> <td>55.2</td> <td>50.2</td> <td>48.6</td> </tr> <tr> <td>地点C</td> <td>59.0</td> <td>58.3</td> <td>51.6</td> <td>52.6</td> </tr> <tr> <td>地点D</td> <td>53.8</td> <td>57.6</td> <td>54.1</td> <td>50.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">L_{A95}</td> <td>地点A</td> <td>57.5</td> <td>58.1</td> <td>57.2</td> <td>53.8</td> </tr> <tr> <td>地点B</td> <td>52.9</td> <td>53.3</td> <td>48.1</td> <td>47.5</td> </tr> <tr> <td>地点C</td> <td>57.2</td> <td>54.9</td> <td>48.4</td> <td>51.2</td> </tr> <tr> <td>地点D</td> <td>49.3</td> <td>55.3</td> <td>51.5</td> <td>48.7</td> </tr> </tbody> </table> <p><道路交通騒音> 工事用車両の走行ルートである市道0114号及び一般国道357号を対象に、沿道の住居等の分布状況を考慮して、代表的な2地点で実施した現地調査結果は以下に示すとおりである。</p> <p>道路交通騒音現地調査結果 単位：デシベル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th rowspan="2">路線</th> <th rowspan="2">調査日^{注)}</th> <th colspan="2">等価騒音レベル (L_{Aeq})</th> </tr> <tr> <th>昼間 (6~22時)</th> <th>夜間 (22~6時)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地点①</td> <td rowspan="2">市道0114号</td> <td>1回目</td> <td>71.2</td> <td>69.9</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>71.5</td> <td>69.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地点②</td> <td rowspan="2">一般国道357号</td> <td>1回目</td> <td>61.6</td> <td>60.4</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>60.6</td> <td>59.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現工場のごみ収集車両が曜日により収集エリアが異なることから、月・水・金の1日及び火・木・土の1日の計2日の調査を行った。1回目：木曜日、2回目：月曜日</p> | 調査地点 | 等価騒音レベル (L _{Aeq}) | | 昼間 (6~22時) | 夜間 (22~6時) | 地点A | 63.5 | 59.4 | 地点B | 56.6 | 50.5 | 地点C | 62.5 | 58.5 | 地点D | 61.2 | 55.4 | 項目 | 調査地点 | 時間率騒音レベル | | | | 朝 | 昼間 | 夕 | 夜間 | L _{A5} | 地点A | 65.3 | 67.8 | 69.5 | 61.4 | 地点B | 59.7 | 60.7 | 56.0 | 53.0 | 地点C | 67.7 | 68.6 | 65.0 | 63.2 | 地点D | 65.8 | 66.8 | 62.1 | 58.3 | L _{A50} | 地点A | 59.7 | 60.2 | 60.1 | 56.0 | 地点B | 53.9 | 55.2 | 50.2 | 48.6 | 地点C | 59.0 | 58.3 | 51.6 | 52.6 | 地点D | 53.8 | 57.6 | 54.1 | 50.6 | L _{A95} | 地点A | 57.5 | 58.1 | 57.2 | 53.8 | 地点B | 52.9 | 53.3 | 48.1 | 47.5 | 地点C | 57.2 | 54.9 | 48.4 | 51.2 | 地点D | 49.3 | 55.3 | 51.5 | 48.7 | 調査地点 | 路線 | 調査日 ^{注)} | 等価騒音レベル (L _{Aeq}) | | 昼間 (6~22時) | 夜間 (22~6時) | 地点① | 市道0114号 | 1回目 | 71.2 | 69.9 | 2回目 | 71.5 | 69.7 | 地点② | 一般国道357号 | 1回目 | 61.6 | 60.4 | 2回目 | 60.6 | 59.7 | 建設機械稼働 | <p>建設機械稼働による敷地境界における騒音レベルの最大値は、解体工事及び埋設廃棄物対策工事時の76デシベルであり、規制基準（85デシベル以下）を満足するものと予測する。</p> |
| | 調査地点 | | 等価騒音レベル (L _{Aeq}) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 昼間 (6~22時) | 夜間 (22~6時) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点A | 63.5 | 59.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点B | 56.6 | 50.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点C | 62.5 | 58.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点D | 61.2 | 55.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 調査地点 | 時間率騒音レベル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 朝 | 昼間 | 夕 | 夜間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| L _{A5} | 地点A | 65.3 | 67.8 | 69.5 | 61.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点B | 59.7 | 60.7 | 56.0 | 53.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点C | 67.7 | 68.6 | 65.0 | 63.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点D | 65.8 | 66.8 | 62.1 | 58.3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| L _{A50} | 地点A | 59.7 | 60.2 | 60.1 | 56.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点B | 53.9 | 55.2 | 50.2 | 48.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点C | 59.0 | 58.3 | 51.6 | 52.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点D | 53.8 | 57.6 | 54.1 | 50.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| L _{A95} | 地点A | 57.5 | 58.1 | 57.2 | 53.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点B | 52.9 | 53.3 | 48.1 | 47.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点C | 57.2 | 54.9 | 48.4 | 51.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点D | 49.3 | 55.3 | 51.5 | 48.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査地点 | 路線 | 調査日 ^{注)} | 等価騒音レベル (L _{Aeq}) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 昼間 (6~22時) | 夜間 (22~6時) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点① | 市道0114号 | 1回目 | 71.2 | 69.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2回目 | 71.5 | 69.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点② | 一般国道357号 | 1回目 | 61.6 | 60.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2回目 | 60.6 | 59.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 施工時 | <p>工事用車両による道路交通騒音の予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>予測騒音レベルは、市道0114号で71.3~71.6デシベル、一般国道357号で60.6~61.7デシベルであり、市道0114号では参考基準値を上回るものと予測する。また、工事用車両による騒音レベルの増加量は、市道0114号で0.1デシベル、一般国道357号で0.0~0.1デシベルと予測する。</p> <p>工事用車両による道路交通騒音予測結果 (L_{Aeq}) 単位：デシベル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点 (道路名)</th> <th>曜日^{注1)}</th> <th>予測結果</th> <th>増加量</th> <th>参考^{注2)} 基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地点① (市道0114号)</td> <td>I</td> <td>71.6</td> <td>0.1</td> <td rowspan="2">70</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>71.3</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地点② (一般国道357号)</td> <td>I</td> <td>60.6</td> <td>0.0</td> <td rowspan="2">70</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>61.7</td> <td>0.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) I：月・水・金、II：火・木・土 注2) 地点①については環境基準の類型指定がなされていないため、道路に面する地域の環境基準値及び幹線交通を担う道路に近接する空間の特例値を参照のうえ参考基準値を設定した。 注3) 予測の時間区分：昼間（6時~22時）</p> | 予測地点 (道路名) | 曜日 ^{注1)} | 予測結果 | 増加量 | 参考 ^{注2)} 基準値 | 地点① (市道0114号) | I | 71.6 | 0.1 | 70 | II | 71.3 | 0.1 | 地点② (一般国道357号) | I | 60.6 | 0.0 | 70 | II | 61.7 | 0.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 予測地点 (道路名) | 曜日 ^{注1)} | 予測結果 | 増加量 | 参考 ^{注2)} 基準値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点① (市道0114号) | I | 71.6 | 0.1 | 70 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | II | 71.3 | 0.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点② (一般国道357号) | I | 60.6 | 0.0 | 70 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | II | 61.7 | 0.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 供用時 | <p>廃棄物焼却施設稼働による騒音の敷地境界における騒音レベルの最大値は、対象事業実施区域の南側において52デシベルであり、計画目標値（昼間：55デシベル以下、朝・夕：55デシベル以下、夜間：55デシベル以下）を満足するものと予測する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 環境保全措置 | 評価の結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---------------------------------|-----------|-----|----|-------|--------------------|--|---------------------------------|---------------------|---|--|---------|--|--|----|----|-----|----|--|--|-------|----|----|----|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設機械は、低騒音型の建設機械を使用する。 周辺地域への騒音伝搬を防止するために、計画地の周辺に仮囲い（高さ3.0m）を設置する。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生騒音が極力少なくなる施工方法や手順を十分に検討する。 建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努める。 建設機械の整備、点検を徹底する。 不要なアイドリングや空ぶかしをしないよう徹底する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>工事の実施にあたっては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価</p> <p>建設機械稼働による騒音レベルの予測結果の最大値は、解体工事及び埋設廃棄物対策工事時の76デシベルと予測され、整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="778 600 1437 739"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th>騒音レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地境界</td> <td>騒音規制法及び船橋市環境保全条例に基づく特定建設作業における規制基準</td> <td>85デシベル以下</td> </tr> </tbody> </table> | 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | 根拠 | 騒音レベル | 敷地境界 | 騒音規制法及び船橋市環境保全条例に基づく特定建設作業における規制基準 | 85デシベル以下 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 騒音レベル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 敷地境界 | 騒音規制法及び船橋市環境保全条例に基づく特定建設作業における規制基準 | 85デシベル以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事用車両の通行は、一般車両の多い通勤時間帯などを避けるように努める。 不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底する。 工事用車両の整備、点検を徹底する。 通勤車両台数を減らすために、工事業者に対して工事作業用通勤車両の相乗りを励行する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>工事の実施にあたっては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価</p> <p>工事用車両による道路交通騒音の予測結果は、市道0114号で71.3～71.6デシベル、一般国道357号で60.6～61.7デシベルであり、市道0114号については整合を図るべき基準を超過するものの、現況において整合を図るべき基準を上回っているものであり、工事用車両による騒音レベルの増加分は、市道0114号で0.1デシベル、一般国道357号で0.0～0.1デシベルと少なく、いずれの地点とも周辺環境へ及ぼす影響は小さいものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="746 1193 1469 1424"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th>騒音レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地点① (市道 0114 号)</td> <td>環境基本法に基づく騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に近接する空間の昼間の特例値）の参照</td> <td>70デシベル以下 (L_{Aeq})</td> </tr> <tr> <td>地点② (一般国道 357 号)</td> <td>環境基本法に基づく騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に近接する空間の昼間の特例値）</td> <td>70デシベル以下 (L_{Aeq})</td> </tr> </tbody> </table> | 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | 根拠 | 騒音レベル | 地点① (市道 0114 号) | 環境基本法に基づく騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に近接する空間の昼間の特例値）の参照 | 70デシベル以下 (L _{Aeq}) | 地点② (一般国道 357 号) | 環境基本法に基づく騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に近接する空間の昼間の特例値） | 70デシベル以下 (L _{Aeq}) | | | | | | | | | | | | | |
| 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 騒音レベル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点① (市道 0114 号) | 環境基本法に基づく騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に近接する空間の昼間の特例値）の参照 | 70デシベル以下 (L _{Aeq}) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点② (一般国道 357 号) | 環境基本法に基づく騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に近接する空間の昼間の特例値） | 70デシベル以下 (L _{Aeq}) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 騒音の伝搬を防止するために、処理設備は建屋内に配置する。 外部への騒音の漏洩防止のために、工場棟の出入口にはシャッターを設けて可能な限り閉止する。 空気圧縮機、誘引通風機、蒸気タービン等は、内側に吸音処理を施した独立部屋に収納する。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設備機器類は、低騒音型機器の採用に努める。 設備機器の整備、点検を徹底する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>新工場の供用に際しては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価</p> <p>廃棄物焼却施設稼働による騒音の予測結果の最大値は、対象事業実施区域の南側において52デシベルであり、整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="746 1771 1469 2018"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="4">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th colspan="3">騒音レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">敷地境界</td> <td rowspan="2">騒音規制法及び船橋市環境保全条例に基づく規制基準（第四種区域）及び本事業の計画目標値</td> <td colspan="3">単位：デシベル</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>昼間</td> <td>朝・夕</td> <td>夜間</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>計画目標値</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> | 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | | | 根拠 | 騒音レベル | | | 敷地境界 | 騒音規制法及び船橋市環境保全条例に基づく規制基準（第四種区域）及び本事業の計画目標値 | 単位：デシベル | | | 区分 | 昼間 | 朝・夕 | 夜間 | | | 計画目標値 | 55 | 55 | 55 |
| 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 騒音レベル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 敷地境界 | 騒音規制法及び船橋市環境保全条例に基づく規制基準（第四種区域）及び本事業の計画目標値 | 単位：デシベル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 区分 | 昼間 | 朝・夕 | 夜間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 計画目標値 | 55 | 55 | 55 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 10-1 環境影響評価結果の概要(5/12)

| 項目 | 調査の結果 | 活動要素 | 予測の結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|------------------|--------------------|--------------------------|--------------------|--------------------------|---------------|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|---|-----------|-----------|-----|-----------|-----------|-------------------------|---|---------------|-------------------|------|-----|--------------------------|------------------|---|------|-----|----|----|------|-----|-------------------|---|------|-----|----|----|------|-----|
| 振動 | <p><環境振動> 対象事業実施区域の敷地境界の4地点で実施した現地調査結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>環境振動現地調査結果 (L₁₀) 単位：デシベル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>昼間 (8時～19時)</th> <th>夜間 (19時～8時)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地点A</td> <td>46.2～52.5</td> <td>37.3～50.9</td> </tr> <tr> <td>地点B</td> <td>41.7～46.7</td> <td>33.5～44.6</td> </tr> <tr> <td>地点C</td> <td>46.3～52.6</td> <td>35.5～48.9</td> </tr> <tr> <td>地点D</td> <td>47.4～53.2</td> <td>34.2～50.1</td> </tr> </tbody> </table> | 調査地点 | 昼間 (8時～19時) | 夜間 (19時～8時) | 地点A | 46.2～52.5 | 37.3～50.9 | 地点B | 41.7～46.7 | 33.5～44.6 | 地点C | 46.3～52.6 | 35.5～48.9 | 地点D | 47.4～53.2 | 34.2～50.1 | 建設機械稼働 | 建設機械稼働による敷地境界における振動レベルの最大値は、新設工事時の70デシベルであり、規制基準(75デシベル以下)を満足するものと予測する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 調査地点 | 昼間 (8時～19時) | 夜間 (19時～8時) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地点A | 46.2～52.5 | 37.3～50.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点B | 41.7～46.7 | 33.5～44.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点C | 46.3～52.6 | 35.5～48.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点D | 47.4～53.2 | 34.2～50.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p><道路交通振動> 工事用車両の走行ルートである市道0114号及び一般国道357号を対象に、沿道の住居等の分布状況を考慮して、代表的な2地点で実施した現地調査結果は以下に示すとおりである。</p> <p>道路交通振動現地調査結果 単位：デシベル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th rowspan="2">路線</th> <th rowspan="2">調査日^{注1)}</th> <th colspan="2">振動レベル (L₁₀)</th> </tr> <tr> <th>昼間 (8～19時)</th> <th>夜間 (19～8時)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地点①</td> <td rowspan="2">市道0114号</td> <td>1回目</td> <td>45.6～51.6</td> <td>40.9～49.4</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>45.1～51.5</td> <td>40.5～49.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地点②</td> <td rowspan="2">一般国道357号</td> <td>1回目</td> <td>47.4～51.4</td> <td>45.6～50.7</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>46.6～50.7</td> <td>45.5～50.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現工場のごみ収集車両が曜日により収集エリアが異なることから、月・水・金の1日及び火・木・土の1日の計2日の調査を行った。1回目：木曜日、2回目：月曜日</p> | 調査地点 | 路線 | 調査日 ^{注1)} | 振動レベル (L ₁₀) | | 昼間 (8～19時) | 夜間 (19～8時) | 地点① | 市道0114号 | 1回目 | 45.6～51.6 | 40.9～49.4 | 2回目 | 45.1～51.5 | 40.5～49.7 | 地点② | 一般国道357号 | 1回目 | 47.4～51.4 | 45.6～50.7 | 2回目 | 46.6～50.7 | 45.5～50.5 | <p>施工時</p> <p>工事用車両</p> | <p>工事用車両による道路交通振動の予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>予測振動レベルは、市道0114号で49.3～49.5デシベル、一般国道357号で49.4～49.9デシベルであり、参考基準値を下回るものと予測する。</p> <p>工事用車両による道路交通振動予測結果 単位：デシベル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点 (道路名)</th> <th>曜日^{注1)}</th> <th>予測結果</th> <th>増加量</th> <th>参考^{注2)} 基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地点① (市道0114号)</td> <td>I</td> <td>49.3</td> <td>0.1</td> <td rowspan="2">70</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>49.5</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地点② (一般国道357号)</td> <td>I</td> <td>49.4</td> <td>0.1</td> <td rowspan="2">70</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>49.9</td> <td>0.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) I：月・水・金、II：火・木・土 注2) 地点①については道路交通振動の要請限度が適用されないため、土地利用状況等を考慮して、第二種区域の要請限度を参照のうえ参考基準値を設定した。</p> | 予測地点 (道路名) | 曜日 ^{注1)} | 予測結果 | 増加量 | 参考 ^{注2)} 基準値 | 地点① (市道0114号) | I | 49.3 | 0.1 | 70 | II | 49.5 | 0.1 | 地点② (一般国道357号) | I | 49.4 | 0.1 | 70 | II | 49.9 | 0.1 |
| 調査地点 | | | | 路線 | 調査日 ^{注1)} | 振動レベル (L ₁₀) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 昼間 (8～19時) | 夜間 (19～8時) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点① | 市道0114号 | 1回目 | 45.6～51.6 | 40.9～49.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2回目 | 45.1～51.5 | 40.5～49.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点② | 一般国道357号 | 1回目 | 47.4～51.4 | 45.6～50.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2回目 | 46.6～50.7 | 45.5～50.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 予測地点 (道路名) | 曜日 ^{注1)} | 予測結果 | 増加量 | 参考 ^{注2)} 基準値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点① (市道0114号) | I | 49.3 | 0.1 | 70 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | II | 49.5 | 0.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点② (一般国道357号) | I | 49.4 | 0.1 | 70 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | II | 49.9 | 0.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>廃棄物焼却施設稼働による振動の敷地境界における振動レベルの最大値は、対象事業実施区域の南側において45デシベルであり、計画目標値(昼間：55デシベル以下、夜間：55デシベル以下)を満足するものと予測する。</p> | 供用時 廃棄物焼却施設稼働 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 環境保全措置 | 評価の結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|------------------------------|-----------|----|----|-------|--------------------|----------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|------------------------------|----|----|----|--|--|-------|----|----|
| <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生振動が極力少なくなる施工方法や手順を十分に検討する。 建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努める。 建設機械の整備、点検を徹底する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>工事の実施にあたっては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価</p> <p>建設機械稼働による振動レベルの予測結果の最大値は、新設工事時の70デシベルと予測され、敷地境界での振動レベルは整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="759 600 1422 752"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th>振動レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地境界</td> <td>船橋市環境保全条例に基づく特定建設作業における規制基準</td> <td>75デシベル以下</td> </tr> </tbody> </table> | 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | 根拠 | 振動レベル | 敷地境界 | 船橋市環境保全条例に基づく特定建設作業における規制基準 | 75デシベル以下 | | | | | | | | | | | |
| 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 振動レベル | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 敷地境界 | 船橋市環境保全条例に基づく特定建設作業における規制基準 | 75デシベル以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事用車両の通行は、一般車両の多い通勤時間帯などを避けるように努める。 急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底する。 工事用車両の整備、点検を徹底する。 通勤車両台数を減らすために、工事業者に対して工事業者通勤車両の相乗りを励行する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>工事の実施にあたっては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価</p> <p>工事用車両による道路交通振動の予測結果は、市道0114号で49.3～49.5デシベル、一般国道357号で49.4～49.9デシベルであり、整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="727 1111 1453 1317"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th>振動レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地点① (市道 0114 号)</td> <td>振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度 (第二種区域) の参照</td> <td>70 デシベル以下 (L₁₀)</td> </tr> <tr> <td>地点② (一般国道 357 号)</td> <td>振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度 (第二種区域)</td> <td>70 デシベル以下 (L₁₀)</td> </tr> </tbody> </table> | 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | 根拠 | 振動レベル | 地点① (市道 0114 号) | 振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度 (第二種区域) の参照 | 70 デシベル以下 (L ₁₀) | 地点② (一般国道 357 号) | 振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度 (第二種区域) | 70 デシベル以下 (L ₁₀) | | | | | | | | |
| 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 振動レベル | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点① (市道 0114 号) | 振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度 (第二種区域) の参照 | 70 デシベル以下 (L ₁₀) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地点② (一般国道 357 号) | 振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度 (第二種区域) | 70 デシベル以下 (L ₁₀) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誘引通風機、蒸気タービン等の振動の著しい設備機器は、基礎構造を強固にする。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設備機器類は、低振動型機器の採用に努める。 主要な振動発生機器には、必要に応じて基礎部への防振ゴム設置等の防振対策を施す。 設備機器の整備、点検を徹底する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>新工場の供用に際しては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価</p> <p>廃棄物焼却施設稼働による振動の予測結果の最大値は、対象事業実施区域の南側において45デシベルであり、整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="715 1715 1465 1944"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="3">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th colspan="2">振動レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">敷地境界</td> <td rowspan="2">船橋市環境保全条例に基づく規制基準(第二種区域)及び本事業の計画目標値</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">単位：デシベル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">区分</td> <td style="text-align: center;">昼間</td> <td style="text-align: center;">夜間</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">計画目標値</td> <td style="text-align: center;">55</td> <td style="text-align: center;">55</td> </tr> </tbody> </table> | 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | | 根拠 | 振動レベル | | 敷地境界 | 船橋市環境保全条例に基づく規制基準(第二種区域)及び本事業の計画目標値 | 単位：デシベル | | 区分 | 昼間 | 夜間 | | | 計画目標値 | 55 | 55 |
| 予測地点 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 振動レベル | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 敷地境界 | 船橋市環境保全条例に基づく規制基準(第二種区域)及び本事業の計画目標値 | 単位：デシベル | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 区分 | 昼間 | 夜間 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 計画目標値 | 55 | 55 | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 10-1 環境影響評価結果の概要(6/12)

| 項目 | 調査の結果 | 活動要素 | 予測の結果 | | | | | | | | | | |
|----------|---|--------------------------|---|-------|--|--------|--|----------|--|--------|--|--------------|---|
| 悪臭 | <p>対象事業実施区域の敷地境界2地点（風下側、風上側各1地点）で2回実施した現地調査結果は、特定悪臭物質濃度は、2回ともいずれの地点も全ての項目で悪臭防止法に基づく敷地境界の規制基準を満足していた。臭気濃度（臭気指数）は、ほこり臭が確認された1回目の地点1（風上側）を除き、いずれの地点も10未満であり、既存工場の稼働による著しい臭気の発生は認められなかった。</p> | <p>供用時 廃棄物焼却施設稼働</p> | <p><廃棄物焼却施設に搬入・貯留される廃棄物の影響> 本事業では、廃棄物の保管場所、処理設備等を建屋内に配置のうえ、搬入や荷下ろし等の作業は屋内で行うものとし、ごみ収集車両が出入するプラットホームの出入口には、エアカーテン等を設置し、搬出入時以外は可能な限りシャッターで外部と遮断することにより、外気の通り抜けによる臭気の漏洩を防止する計画である。また、ごみピット、プラットホームなどは常に負圧を保つことにより、外部への臭気の漏洩を防止する計画である。さらに、プラットホーム及びごみピットには、休炉時など必要に応じて消臭剤を噴霧する。 また、現地調査結果では、いずれの調査についても全地点で特定悪臭物質の濃度が悪臭防止法に基づく敷地境界の規制基準を満足しており、臭気濃度についても既存工場の風下において10未満となっていた。また、現況で悪臭に係る苦情は発生していない状況であることから、右記の環境保全措置を講じることにより、廃棄物焼却施設に搬入・貯留される廃棄物の影響による敷地境界での特定悪臭物質の濃度は、悪臭防止法に基づく規制基準を満足し、臭気濃度は10未満となり、大部分の地域住民が日常生活において感知する以外の臭気を感じない程度になるものと予測する。</p> <p><廃棄物焼却施設稼働(煙突排出ガス)による影響> 廃棄物焼却施設稼働による臭気濃度及びアンモニア（特定悪臭物質）の最大着地濃度の予測結果は、アンモニアが0.1ppm未満であり、悪臭防止法の規制基準を満足し、臭気濃度が10未満であり、大部分の地域住民が日常生活において感知する以外の臭気を感じない程度になるものと予測する。</p> | | | | | | | | | | |
| 土壌 | <p>調査結果の概要は、以下に示すとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査結果の概要</p> <table border="1" data-bbox="188 1256 788 1962"> <thead> <tr> <th data-bbox="188 1256 284 1290">区分</th> <th data-bbox="284 1256 788 1290">調査結果の概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="188 1290 284 1536">地質の状況</td> <td data-bbox="284 1290 788 1536"> <ul style="list-style-type: none"> 地質の状況 対象事業実施区域は最終処分場の跡地であり、地表から4～6mに廃棄物層が存在し、層厚は2～4m程度である。また、その下層は沖積層となっており、沖積層は砂質土層(透水層)と粘性土層(難透水層)の互層で構成されている。 地下水位 地下水は、地表から1～4m付近に存在する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="188 1536 284 1693">土壌ガス調査</td> <td data-bbox="284 1536 788 1693"> <ul style="list-style-type: none"> 土壌ガス すべての地点で定量下限値未満であった。 埋立地内部ガス メタン、酸素について、「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」に基づく、可燃性ガス等の目安を超える地点があった。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="188 1693 284 1906">土壌汚染状況調査</td> <td data-bbox="284 1693 788 1906"> <ul style="list-style-type: none"> 溶出量及び含有量 鉛、砒素、ふっ素の溶出量及び鉛の含有量について、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定基準を超過する地点があった。 ダイオキシン類 4層混合で詳細な調査が必要とされる指針値を超えた地点の廃棄物層で土壌の環境基準を超過していた。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="188 1906 284 1962">地下水質調査</td> <td data-bbox="284 1906 788 1962"> <ul style="list-style-type: none"> 鉛、ふっ素、ほう素及びダイオキシン類 環境基準を超過する地点がみられた。 </td> </tr> </tbody> </table> | 区分 | 調査結果の概要 | 地質の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 地質の状況 対象事業実施区域は最終処分場の跡地であり、地表から4～6mに廃棄物層が存在し、層厚は2～4m程度である。また、その下層は沖積層となっており、沖積層は砂質土層(透水層)と粘性土層(難透水層)の互層で構成されている。 地下水位 地下水は、地表から1～4m付近に存在する。 | 土壌ガス調査 | <ul style="list-style-type: none"> 土壌ガス すべての地点で定量下限値未満であった。 埋立地内部ガス メタン、酸素について、「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」に基づく、可燃性ガス等の目安を超える地点があった。 | 土壌汚染状況調査 | <ul style="list-style-type: none"> 溶出量及び含有量 鉛、砒素、ふっ素の溶出量及び鉛の含有量について、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定基準を超過する地点があった。 ダイオキシン類 4層混合で詳細な調査が必要とされる指針値を超えた地点の廃棄物層で土壌の環境基準を超過していた。 | 地下水質調査 | <ul style="list-style-type: none"> 鉛、ふっ素、ほう素及びダイオキシン類 環境基準を超過する地点がみられた。 | <p>工事の実施</p> | <p>本事業では、土壌汚染対策法及び廃棄物処理法に基づき、汚染土壌や地下水、埋設廃棄物に関して今後必要な調査を実施するとともに、同法に基づき適切な対策を講じる計画である。</p> <p>具体的には、施設の新設工事に先立ち、工事の掘削深さよりも深い位置にある難透水層(地表から約15～20m)まで鉛直遮水工を施し、水平方向への拡散を防止するとともに、鉛直方向の汚染拡散防止対策として難透水層までケーシングを設置し、中の土壌をすべて除去した後、不透水材を充填し杭施工を行う計画であり、土地の改変に伴う埋設廃棄物等による水平方向及び鉛直方向の影響を防止する計画である。</p> <p>また、事業実施区域から発生する排水については、敷地内全ての雨水を集水のうえ、一旦、沈砂池に貯留し、排水処理設備を設けて適切に処理したのちに、海域へ放流する計画であり、「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」に則り、最終処分場からの施設排水に係る基準を遵守する。</p> <p>掘削した土壌については、場内での埋戻しや場外搬出を行う計画としており、必要な検査を実施のうえ特定有害物質の種類及び濃度によって区分し、仮置き時、運搬時においては区分毎に適正な管理を実施し、土壌汚染対策法に基づく浄化施設で適切に処理する。なお、掘削した埋設廃棄物については、場外へ搬出する計画としており、廃棄物処理法に基づき適正に処分する。</p> <p>以上のことから、本事業の実施に伴う土壌汚染、地下水汚染の影響はないものと予測する。</p> |
| 区分 | 調査結果の概要 | | | | | | | | | | | | |
| 地質の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 地質の状況 対象事業実施区域は最終処分場の跡地であり、地表から4～6mに廃棄物層が存在し、層厚は2～4m程度である。また、その下層は沖積層となっており、沖積層は砂質土層(透水層)と粘性土層(難透水層)の互層で構成されている。 地下水位 地下水は、地表から1～4m付近に存在する。 | | | | | | | | | | | | |
| 土壌ガス調査 | <ul style="list-style-type: none"> 土壌ガス すべての地点で定量下限値未満であった。 埋立地内部ガス メタン、酸素について、「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」に基づく、可燃性ガス等の目安を超える地点があった。 | | | | | | | | | | | | |
| 土壌汚染状況調査 | <ul style="list-style-type: none"> 溶出量及び含有量 鉛、砒素、ふっ素の溶出量及び鉛の含有量について、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定基準を超過する地点があった。 ダイオキシン類 4層混合で詳細な調査が必要とされる指針値を超えた地点の廃棄物層で土壌の環境基準を超過していた。 | | | | | | | | | | | | |
| 地下水質調査 | <ul style="list-style-type: none"> 鉛、ふっ素、ほう素及びダイオキシン類 環境基準を超過する地点がみられた。 | | | | | | | | | | | | |

| 環境保全措置 | 評価の結果 | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|-----------|--|----|----|------|--------------|-----------------------------------|-------|------------|----------|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の保管場所、処理設備を建屋内に配置する。 ・搬入や荷下ろしの作業を屋内で行う。 ・プラットホームの出入口には、エアカーテン等を設置し、搬出入時以外は可能な限りシャッターで外部と遮断する。 ・ごみピット、プラットホームは、常に負圧を保つことで外部への臭気の漏洩を防ぐ。 ・ごみピットの空気を焼却炉の燃焼用空気として炉内に吹き込むことで、燃焼による臭気成分の分解を行う。 ・休炉時の悪臭防止対策として、活性炭を用いた脱臭装置を設置する。 ・プラットホーム及びごみピットには、休炉時など必要に応じて消臭剤を噴霧する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価 新工場の供用に際しては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価 ＜廃棄物焼却施設に搬入・貯留される廃棄物の影響＞ 廃棄物焼却施設に搬入・貯留される廃棄物の影響による敷地境界での特定悪臭物質の濃度は、悪臭防止法に基づく規制基準を満足し、臭気濃度は10未満となり、大部分の地域住民が日常生活において感知する以外の臭気を感じない程度になるものと予測され、整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p>＜廃棄物焼却施設稼働（煙突排出ガス）による影響＞ 廃棄物焼却施設稼働による臭気濃度及びアンモニア（特定悪臭物質）の最大着地濃度の予測結果は、臭気濃度が10未満、アンモニアが0.1ppm未満であり、整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">整合を図るべき基準</p> <table border="1" data-bbox="754 891 1471 1093"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">整合を図るべき基準</th> </tr> <tr> <th>根拠</th> <th>基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臭気濃度</td> <td>千葉県悪臭防止対策の指針</td> <td>大部分の地域住民が日常生活において感知する以外の臭気を感じない程度</td> </tr> <tr> <td>アンモニア</td> <td>悪臭防止法の規制基準</td> <td>1 ppm 以下</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 整合を図るべき基準 | | 根拠 | 基準 | 臭気濃度 | 千葉県悪臭防止対策の指針 | 大部分の地域住民が日常生活において感知する以外の臭気を感じない程度 | アンモニア | 悪臭防止法の規制基準 | 1 ppm 以下 |
| 項目 | 整合を図るべき基準 | | | | | | | | | | | |
| | 根拠 | 基準 | | | | | | | | | | |
| 臭気濃度 | 千葉県悪臭防止対策の指針 | 大部分の地域住民が日常生活において感知する以外の臭気を感じない程度 | | | | | | | | | | |
| アンモニア | 悪臭防止法の規制基準 | 1 ppm 以下 | | | | | | | | | | |
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地の改変に伴う埋設廃棄物による水平方向及び鉛直方向の影響を防止するため、鉛直遮水工及びケーシングを用いた杭工法を組合せた施工を行う。 ・工事中における雨水による濁水を防止するため、敷地内全ての雨水を沈砂池に集水し、排水処理設備を設けて適切に処理した後に、海域へ放流する。 ・場外搬出にあたっては、土壤汚染対策法に基づき適正に対応する。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掘削工事にあたっては、飛散防止対策として、敷地境界周辺に防じんネットや仮囲い等を設置し、必要に応じて散水、シート掛け、覆土等を行う。 ・仮置きした際の地下浸透を防止するため、必要に応じて遮水シート等による養生を行う。 ・掘削した廃棄物等は、風雨等により飛散することがないように、ポリエチレン内袋付きフレキシブルコンテナバック等で保管する。 ・工事の実施に伴う影響を監視するため、地下埋設廃棄物層の外周部にある既存井戸付近において地下水質のモニタリングを行う。 ・工事の実施にあたっては事前調査を行い、可燃性ガス等対策を講ずる必要があると判断した場合は、「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」に基づき作業環境濃度の監視や換気対策を行う。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価 工事の実施にあたっては、土地の改変に伴う汚染土壌、地下水及び埋設廃棄物による水平方向及び鉛直方向の影響を防止するため、鉛直遮水工及びケーシングを用いた杭工法を組合せた施工を行う計画としている。また、対象事業実施区域からの排水や土壌の仮置き、場外への運搬等にあたっては、土壤汚染対策法で定められる各種ガイドライン等に基づき適切な保全対策を行い、周辺に影響を及ぼすことがないように配慮することから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> <p>② 環境基準等と予測結果との比較による評価 対象事業実施区域における現地調査結果では、土壌については、鉛、砒素、ふっ素の溶出量及び鉛の含有量が土壤汚染対策法に基づく指定区域の指定基準を超過する地点がみられ、廃棄物層の一部の地点でダイオキシン類の環境基準を超過していた。また、地下水については、鉛、ふっ素、ほう素及びダイオキシン類について環境基準を超過する地点があった。 これに対して、本事業では土壤汚染対策法に基づき適切な保全対策を行い、周辺に影響を及ぼすことがないように配慮する計画であり、対象事業実施区域外への拡散はないことから、周辺地域に対して環境基本法及びダイオキシン類対策特別措置法の環境基準の確保のための支障となることはない。したがって、整合を図るべき基準を満足するものと評価する。</p> | | | | | | | | | | | |

表 10-1 環境影響評価結果の概要(7/12)

| 項目 | 調査の結果 | 活動要素 | 予測の結果 |
|----|---|---------------------------------------|--|
| 植物 | <p>1. 文献・予備・現地調査結果</p> <p><確認種> 調査地域では、文献調査で40科148種、予備調査で46科101種が確認されており、ふなばし三番瀬海浜公園の海浜部に自然植生がある他は植栽による種で構成されていた。</p> <p><重要種> 文献調査において調査地域で確認された重要な種はオニグルミ、コギシギシ、ウラギク、ハマヒエガエリ、シオクグ、イヌクグ、イソヤマテンツキ、イセウキヤガラ、シラン、ハマカキランの6科10種であった。予備調査・現地調査では重要種が確認されなかった。</p> <p><大径木・古木> 大径木や古木は確認されなかった。</p> <p><植生自然度> 植生自然度は植生自然度1が75.2%を占める結果となり、市街地、造成地など自然度の低い地域となっていた。</p> | <p>工事の実施及び廃棄物焼却施設の存在 施工時及び供用時</p> | <p><植物相の変化> 事業による直接的な改変により、対象事業実施区域内の植物は一部を除き消失するが、ふなばし三番瀬海浜公園や周辺の工場等の緑地は改変しないことから、施工時、供用直後、供用数年後においても予測地域の植物相に変化はないものと予測する。</p> <p><重要な種及び地域の特性を把握する上で注目される種の生育状況の変化> 予測対象種は対象事業実施区域内において植栽種以外は確認されておらず、直接的な改変による生育状況の変化はないものと予測する。</p> <p><植物群落の変化> 対象事業実施区域の植生は工場地帯に区分されており、施工時及び供用直後、供用数年後に調査地域の植生区分が変化することはないと予測する。</p> <p><植生自然度の変化> 対象事業実施区域は自然度1の「市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区」に区分されており、施工時及び供用直後、供用数年後のいずれにおいても植生自然度に変化はないものと予測する。</p> |

| 環境保全措置 | 評価の結果 |
|--|---|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「船橋市環境共生まちづくり条例」の緑地確保基準では、工業専用地域の工場（500m²以上）に対する緑地設置面積は12%以上と定められており、本事業ではこれに準じた緑化に努める。 ・工場棟等の建築物の周りや敷地外周部に沿って緑地を確保することにより、景観面の配慮を行う。 ・生育が良好な既存の樹木を極力保全する。 ・植栽する樹種は、計画地の立地条件を考慮して適切な樹種の選定に努める。 | <p>1. 植物相の保全 事業による直接的な改変により、対象事業実施区域内の植物は一部を除き消失するが、ふなばし三番瀬海浜公園や周辺の工場等の緑地は改変せず、予測地域の植物相に変化はないものと考えられること、供用時には現況と同程度の緑地を確保することから植物相への影響はないものと評価する。</p> <p>2. 重要な種の分布 予測対象種は対象事業実施区域内で確認されておらず、直接的な改変による生育状況の変化はないものと予測されることから、重要な種の分布については事業による影響はないものと評価する。</p> <p>3. 植物群落 対象事業実施区域の植生は工場地帯に区分されており、施工時及び供用直後、供用数年後に植生区分が変化することはないと予測されること、土地利用の状況については、施工時及び供用直後、供用数年後のいずれにおいても、現況に対してほとんど変化しないものと予測されることから、植物群落については事業による影響はないものと評価する。</p> <p>4. 植生自然度 対象事業実施区域は自然度1の「市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区」に区分されており、施工時及び供用直後、供用数年後のいずれにおいても植生自然度に変化はないものと予測されることから、植生自然度については事業による影響はないものと評価する。</p> |

表 10-1 環境影響評価結果の概要(8/12)

| 項目 | 調査の結果 | 活動要素 | 予測の結果 |
|----|---|--------------------------|---|
| 動物 | <p>1. 文献・予備・現地調査結果</p> <p><確認種> 文献調査において調査地域で確認された動物種数は哺乳類が2科2種、鳥類が27科88種、爬虫類が3科5種、昆虫類が60科112種であった。 予備調査において対象事業実施区域で確認された種数は鳥類が9科10種、昆虫類が45科62種であり、哺乳類、爬虫類及び両生類の生息は確認されなかった。 現地調査において対象事業実施区域で確認された動物種数は、哺乳類1科1種、鳥類13科17種、爬虫類2科2種、昆虫類106科258種であった。両生類は確認されなかった。</p> <p><重要種> 鳥類は、文献調査において確認された重要種は52種であり、多くがふなばし三番瀬海浜公園等で確認された水鳥であった。予備調査、現地調査ではカワウ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、コアジサシ、ツバメの5種が確認された。 爬虫類は、文献調査において3科5種が確認され、現地調査では対象事業実施区域において、ニホンヤモリとニホンカナヘビの2科2種が確認された。 昆虫類はオサムシモドキ、ヤマトケシマグソコガネ、ハマベゾウムシ、アカオビケラトリバチ、ニッポントゲアナバチの4科5種確認され、全て文献調査による確認記録であった。</p> <p><注目すべき生息地> 対象事業実施区域の南側に位置するふなばし三番瀬海浜公園の海浜部があげられる。</p> | <p>工事の実施及び廃棄物焼却施設の存在</p> | <p><動物相の変化> 施工時及び供用直後においては、対象事業実施区域内で一時的に生息できなくなるものの、ふなばし三番瀬海浜公園や周辺の工場等の緑地などの動物の生息環境は改変しないことから、予測地域の動物相については変化はないものと予測する。供用数年後についても施工時及び供用直後と同様に動物相については変化はないものと予測する。</p> <p><地域を特徴づける種 又は指標性の高い種の分布域の変化> 地域を特徴づける種又は指標性の高い種としては、「市街地・道路」の構成種のうち、現地でも確認された鳥類のツバメ、爬虫類のニホンヤモリ、ニホンカナヘビを選定した。 その結果、施工時及び供用直後については対象事業実施区域を利用することはできないため、分布域は変化するものと予測する。供用数年後については、再び対象事業実施区域を利用するものと考えられ、分布域は現況とほぼ同様になるものと予測する。</p> <p><重要な種の生息状況の変化> 対象事業実施区域を利用が想定される種は、ハヤブサ、シラコバト、イソヒヨドリ、ホオジロ、ニホントカゲ、シマヘビ、ニッポントゲアナバチの7種が考えられ、これらの種は施工時及び供用直後に一時的に生息環境が減少するものの、ふなばし三番瀬海浜公園や周辺の工場等の緑地などは改変しないことから、生息状況の変化の程度は小さいものと予測する。</p> <p><注目すべき生息地の変化> 注目すべき生息地である、ふなばし三番瀬海浜公園の海浜部については、事業による改変はないため、注目すべき生息地の状況に変化はないものと予測する。</p> |

| 環境保全措置 | 評価の結果 |
|---|--|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「船橋市環境共生まちづくり条例」の緑地確保基準では、工業専用地域の工場（500m²以上）に対する緑地設置面積は12%以上と定められており、本事業ではこれに準じた緑化に努める。 ・工場棟等の建築物の周りや敷地外周部に沿って緑地を確保する。 ・生育が良好な既存の樹木を極力保全する。 ・植栽する樹種は、計画地の立地条件を考慮して適切な樹種の選定に努める。 | <p>1. 構成生物の種類組成の多様性の保全</p> <p>施工時及び供用直後においては、対象事業実施区域内で一時的に生息できなくなるものの、ふなばし三番瀬海浜公園や周辺の工場等の緑地などの動物の生息環境は改変せず、予測地域の動物相について変化はないものと予測されること、供用時には現況と同程度の緑地を確保することにより、構成生物の種類組成の多様性に対する事業の影響はできる限り回避・低減されているものと評価する。</p> <p>2. 重要種等の適切な保全</p> <p>重要な種の多くは三番瀬を利用する鳥類や昆虫類であり、三番瀬は改変しないことから影響はないものと考えられる。また、対象事業実施区域を利用する可能性のある種については、施工時及び供用直後において一時的に生息環境が減少する可能性があるものの、ふなばし三番瀬海浜公園や周辺の工場等の緑地などの動物の生息環境は改変せず、供用時には対象事業実施区域において現況と同程度の緑地を確保することから、生息状況の変化の程度は小さいものと考えられる。</p> <p>これらのことから重要種に対する影響は回避・低減が図られているものと評価する。</p> |

表 10-1 環境影響評価結果の概要(9/12)

| 項目 | 調査の結果 | 活動要素 | 予測の結果 |
|----|--|------------------------------|--|
| 景観 | <p>対象事業実施区域は、南部清掃工場のごみ焼却施設、焼却灰再資源化施設等の工作物の他に草地や樹木などの自然物から構成されている。また、対象事業実施区域周辺については、主に工場や倉庫、事業所等となっているほか、南側は道路を挟んでふなばし三番瀬海浜公園となっており、工業地景観の中に一部自然景観や水辺景観が組み合わさった景観特性となっている。</p> <p>特に、ふなばし三番瀬海浜公園内の調査地点である2地点からの眺望については、多くの自然景観構成要素が残されており、着葉季と落葉季の写真を比較すると、着葉季は緑系、落葉季は茶系と季節により色彩イメージが変化している。一方、工業地景観を望むその他の地点からの眺望については、季節による変化は小さい。</p> <p>なお、船橋市では、平成22年7月に「船橋市景観計画」を策定しており、そのなかで、土地利用や都市構造により景観類型が整理されている。対象事業実施区域周辺は「工業地景観」、ふなばし三番瀬海浜公園は「レクリエーション施設の景観」となっている。</p> | <p>廃棄物焼却施設の存在</p> <p>供用時</p> | <p>供用時における地域の景観は、現況と同様に、工業地景観の中に一部自然景観や水辺景観が組み合わさった景観特性となる。供用時は、建物位置が既存工場の位置から南方向に移動し、建屋が既存工場よりやや大きくなるため、ふなばし三番瀬海浜公園内の新工場を見通すことのできる場所や船橋海浜公園バス停付近については景観特性に影響が生じるものの、その他の地域に与える影響は小さい。</p> <p>また、新工場の色彩については、船橋市景観計画等を踏まえ、彩度の低い黄赤系の色彩を用いて、落ち着いたものとする事により、周辺の工場地景観及びふなばし三番瀬海浜公園のレクリエーション施設の景観と調和が図られるものと予測する。</p> |



【現況】



【供用時】

眺望景観の変化（ふなばし三番瀬海浜公園 東側）



【現況】



【供用時】

眺望景観の変化（ふなばし三番瀬海浜公園 西側）

| 環境保全措置 | 評価の結果 |
|---|--|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設計画にあたって“水辺への眺望、水辺からの眺望など水辺を強く意識した色調・構造とする”、“富士見百景の景観に映える色調・構造とする”、“敷地の緑化に努め、水辺と緑が融和する構造とする”のデザイン方針を設定のうえ検討を行う。 <p>【予測の結果を受けてその対策として講じる環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新工場の色彩は、工業地景観の中に一部自然景観や水辺景観が組み合わさった周辺地域の景観特性との調和を図るため、彩度の低い黄赤系の色彩を用いて、落ち着いた色彩とする。 ・ふなばし三番瀬海浜公園内の新工場を見通すことのできる場所に対し、現況と比較して建屋や煙突までの距離が短くなることから、圧迫感を軽減するため、建物の低層部に着彩し、敷地境界付近で緑化する。 ・敷地境界付近に設置する柵について、周辺地域との調和の図られる色彩とする。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地境界付近に設置する柵についてのセットバックを検討する。 ・圧迫感を軽減するため、長大な壁面が生じないデザインを検討する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>事業の実施にあたっては、左記の環境保全措置を講じることにより、工業地景観の中に一部自然景観や水辺景観が組み合わさった周辺地域の景観特性と調和したものとなると予測される。また、供用時は、建物位置が既存工場の位置から南方向に移動し、建屋が既存工場よりやや大きくなるため、ふなばし三番瀬海浜公園内の新工場を見通すことのできる場所や船橋海浜公園バス停付近については景観特性に影響が生じるものの、その他の地域に与える影響は小さく、地域の景観特性にも配慮されたものとなっており、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> |



眺望景観の変化（二俣新町駅）

【現況】



【供用時】



眺望景観の変化（日の出北公園）

【現況】



【供用時】



眺望景観の変化（茜浜緑道突端部）

【現況】



【供用時】



眺望景観の変化（塩浜地区展望施設）



眺望景観の変化（墓地公園付近護岸部）



眺望景観の変化（市道第09-001号線歩道上）



眺望景観の変化（船橋海浜公園バス停付近）

表 10-1 環境影響評価結果の概要(10/12)

| 項目 | 調査の結果 | 活動要素 | 予測の結果 |
|-----------------|--|---------------------------|---|
| 人と自然との触れ合いの活動の場 | <p>1. 資料調査結果</p> <p>三番瀬は、東京湾最奥部の約1,800haにわたる浅い海域（水深5m未満）のことで、古くからスズキ・カレイ・アサリ・バカガイ・ノリなどの漁場となっている。また、豊富なエサを求めて、ハマシギ・ミヤコドリ・コアジサシなどの野鳥が訪れ、渡り鳥たちの休息や越冬地としても利用されている。</p> <p>ふなばし三番瀬海浜公園は、三番瀬の北端に位置し、人工海浜を利用した潮干狩りや屋外プールなどの事業をメインとしたレクリエーション施設として昭和57年に建設された。現在、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による被害を受け、一部の施設が運営されていないが、潮干狩り、テニスコート、野球場等の施設の利用は可能となっている。なお、屋外プールについては閉鎖され、現在、更地となっている。</p> <p>平成24年度の利用状況は、東日本大震災の影響で本格的な営業とはなっていないが、潮干狩りでの利用が大半を占めており、利用者数は64,852人となっている。</p> <p>ふなばし三番瀬海浜公園までのアクセスは、公共交通機関としてJR船橋駅南口（京成船橋駅）及び京葉線二俣新町駅からのバスルートがあり、潮干狩りシーズンの休日には臨時バス（10～15分間隔）も運行されている。その他のアクセスとしては、自家用車によるものとなり、平成24年度の利用者は年間28,614台であった。</p> | <p>工事の実施</p> | <p>対象事業実施区域周辺の主要な人と自然との触れ合いの活動の場としては、対象事業実施区域の南側に位置するふなばし三番瀬海浜公園がある。</p> <p>工事の実施に伴い建設機械の稼働による粉じん、騒音、振動等の影響や工事用車両の走行に伴う影響が考えられる。このうち、建設機械の稼働による粉じん、騒音、振動等については、これらの影響を予測した結果、いずれの項目も環境保全目標を満足しており、工事による影響を低減するために各種環境保全措置を実施する計画としている。</p> <p>工事用車両による影響については、工事用車両ルートである市道第09-001号線が来園車両のアクセスルートと重複する。現地調査の結果から、来園者が多くなる潮干狩りの時期においても休日の一部の時間帯で渋滞が発生する可能性はあるものの、ピーク時の渋滞長は工事用車両のアクセスルートまで至らず、また、本事業では工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行い、公園の利用車両が多いと想定される場合には配慮するなどの対策を講じる計画である。</p> <p>したがって、建設機械の稼働及び工事用車両の走行による主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利便性及び快適性の変化に及ぼす影響は小さいものと予測する。</p> |
| | <p>2. 現地調査結果</p> <p>現地踏査により、ふなばし三番瀬海浜公園の利用内容やアクセスルートの状況等を把握したところ、平日においては、渋滞が生じる事はなく、第1駐車場は、いずれの時間帯も空車の状況であった。また、第2駐車場はバスのみの利用となっていた。休日は、8:30から10:30までの間に渋滞がみられた。また、第1駐車場のほかに、第2、第3、第4駐車場も開放されていたが、すべての駐車場が満車となることはなかった。</p> <p>来園車両のルートは、市道第09-001号線の利用が基本となっていた。各駐車場には交通整理員が配置され、車両の集中による渋滞が生じないように、各駐車場の状況に応じた車両の誘導が行われていた。</p> | <p>廃棄物焼却施設の存在 供用時</p> | <p>対象事業実施区域周辺の主要な人と自然との触れ合いの活動の場としては、対象事業実施区域の南側に位置するふなばし三番瀬海浜公園がある。</p> <p>施設の供用に伴い施設の存在による景観の変化や施設の稼働による大気質、騒音、振動等の影響が考えられる。このうち、景観については、既存施設よりも距離が短くなることから、新工場を見通すことのできる場所では景観の変化が生じるものの、建物のデザインに配慮することにより、できる限り影響が低減されたものとなっている。また、施設の稼働による大気質、騒音、振動等についても、影響を予測した結果、いずれの項目も環境保全目標を満足し、施設の稼働による影響を低減するための各種環境保全措置を実施する計画としている。</p> <p>搬出入車両の走行による影響については、現状においても既存施設に搬入する車両が走行しているが、車両台数が多い市委託車両（塵介車）は夜間収集で昼間の走行はなく、また、許可業者車両等は月曜日、金曜日みの走行となるため、公園の利用が多い土曜日、日曜日の昼間に走行する台数は少ない。</p> <p>したがって、施設の供用による主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利便性及び快適性の変化に及ぼす影響は小さいものと予測する。</p> |

| 環境保全措置 | 評価の結果 |
|--|---|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設機械の稼働による粉じん、騒音、振動等の影響を低減するため、各種環境保全措置を講じる(詳細については、各予測項目の環境保全措置の項を参照)。 ・工事用車両については、車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行い、公園の利用が多くなると想定される場合には、来園車両の多い時間帯などを避けるように努める。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>事業の実施にあたっては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> |
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物のデザインについては、周辺地域の景観特性と調和したものとなるよう配慮する。 ・施設の稼働による大気質、騒音、振動等の影響を低減するため、各種環境保全措置を実施する(詳細については、各予測項目の環境保全措置の項を参照)。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>供用時については、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る環境影響ができる限り低減されているものと評価する。</p> |

表 10-1 環境影響評価結果の概要 (11/12)

| 項目 | 活動要素 | 予測の結果 |
|-----|------------------|--|
| 廃棄物 | 工事の実施 施工時 | <p><建設廃棄物> 新工場の建設工事に伴う産業廃棄物のうち、金属くず (120 t) については、有価物 (製鉄等原料) として売却し、それ以外の1,480 tが排出量となる。 排出する廃棄物の処理、処分方法については、当該工事が「建設リサイクル法」の対象工事となることから、「千葉県建設リサイクル法実施指針」に示されている基本的考え方を踏まえて、建設資材廃棄物の発生抑制、次に、建設資材の再使用、これらの措置後に発生した建設資材廃棄物の再生利用 (マテリアルリサイクル)、それが適切でない場合には、燃焼またはその可能性のある建設資材廃棄物の熱回収 (サーマルリサイクル) を行う。最後にこれらの措置が行われないものについては適正に処分するものとする。</p> <p><既存工場の解体廃棄物> 既存工場の解体工事に伴う産業廃棄物のうち、金属くず (7,145 t) については、有価物 (製鉄等原料) として売却し、それ以外の53,885 tが排出量となる。 排出する廃棄物の処理、処分方法については、当該工事が、新工場の建設工事と同様に建設リサイクル法の対象工事となることから、千葉県建設リサイクル法実施指針に示されている基本的考え方を踏まえて、建設廃棄物と同様に処理、処分するものとする。</p> <p><掘削工事等に伴う埋設廃棄物> 掘削する埋設廃棄物量は、埋設廃棄物層上及び層下の明確な土壌と判断できない部分も含めて約6,500m³と予測する。 埋設廃棄物の掘削工事にあたっては、飛散防止対策として、敷地境界周辺に防じんネットや仮囲い等を設置し、必要に応じて散水、シート掛け、覆土等を行う。埋設廃棄物は、ポリエチレン内袋付きフレキシブルコンテナバック等に詰め込み、保管中、風雨にさらされないように仮置きする。また、仮置きした際の地下浸透を防止するため、必要に応じて遮水シート等による養生を行うとともに、臭気が発生する場合には、中和剤やマスキング剤の散布等を行う。 掘削した埋設廃棄物は、場外へ搬出し、管理型処分場で処分する。 処理にあたっては、管理番号を付帯した一定の搬出量ごとに必要な検査を実施し、管理番号・種類・有害物質濃度等を整理した識別表等を用いることとし、仮置き時、運搬時を通じて適切な管理を行う。 なお、現在までの調査の結果で特別管理廃棄物に該当するものは確認されていないが、検査により特別管理廃棄物に該当する際には、廃棄物処理法に基づいて適正に処理する。</p> |
| | 廃棄物焼却施設稼働 供用時 | <p>供用時に施設から発生する廃棄物は、合計で23.7 t/日であり、このうち7.8 t/日を再資源化のうえ有効利用し、15.9 t/日を最終処分場に埋立処分とする計画である。</p> |
| 残土 | 工事の実施 施工時 | <p>新工場建設工事に対象事業実施区域の造成及びピット等の掘削により発生する発生土は、35,500m³、盛土量は11,000m³であり、残土は24,500m³と予測される。また、既存工場解体工事では、埋戻しのために14,900m³の土砂が必要となる。 なお、新工場建設工事の造成工事、基礎工事から既存工場解体工事までは3年程度の期間があり、残土の仮置き場所を対象事業実施区域内で長期に渡って確保することが困難なことから、新工場建設工事での残土は他の工事現場で再利用し、既存工場解体工事で必要となる埋戻土は、他の工事現場の残土を再利用するものとする。</p> |

| 環境保全措置 | 評価の結果 |
|--|--|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の排出量を抑制するため、廃棄物の分別排出を徹底し、金属くずについては有効利用する。 ・特定建設資材廃棄物については、種類ごとの分別排出を徹底し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律により産業廃棄物の収集運搬業や処分業の許可を受けた業者に委託し、再資源化施設に搬出して処理を行う。 ・特定建設資材以外の廃棄物についても、再資源化が可能なものについては、できる限り分別解体等を実施して再資源化を行う。 ・再資源化等が困難な廃棄物を最終処分する場合は、安定型処分場で処分すべき品目及び管理型処分場で処分すべき品目を分別して適正に処理する。 ・埋設廃棄物は、ポリエチレン内袋付きフレキシブルコンテナバック等で保管し、風雨等により飛散することがないように仮置きする。また、仮置きした際の地下浸透を防止するため、必要に応じて遮水シート等による養生を行う。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>施工時の廃棄物については、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で建設工事に伴う廃棄物の最終処分量ができる限り抑制されているものと評価する。</p> |
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼却灰及び焼却飛灰は、他所において再資源化のうえ有効利用する。 ・焼却鉄は、製鉄等原料として有効利用する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>供用時の廃棄物については、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で施設から発生する廃棄物の最終処分量ができる限り抑制されているものと評価する。</p> |
| <p>本市の「建設発生土の取扱について」（平成21年11月、船橋市公共事業コスト縮減推進委員会）に基づいて、次のような措置を講じる計画である。</p> <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生土は、盛土や埋戻しなどにより、できる限り再利用する造成計画とし、残土量の抑制を図る。 ・場外搬出にあたっては、土壌の分析を行い、汚染が確認された場合は汚染土壌として適正に処分する。 ・残土は、50km範囲内の他の工事現場（本市発注工事優先）へ搬出し再利用する。 ・埋戻土は、50km範囲内の他の工事現場（本市発注工事優先）から搬入し再利用する。 ・50km範囲内の他の工事現場での残土の再利用ができない場合は、建設副産物情報センター運営の「建設発生土情報交換システム」を活用し再利用に努め、それでも他の工事現場で再利用できない残土は、処分地を指定して適正処分する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>工事の実施による残土については、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で工事の実施による残土の排出量ができる限り抑制されているものと評価する。</p> |

表 10-1 環境影響評価結果の概要 (12/12)

| 項目 | 活動要素 | 予測の結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|------------------|--|---------|--|-------------------|---------|--|------|------------------|------|-----|-------|-----------------|------|----|---|----------|-----------------|--------|---|--------|------|-----------------|-----|---|-----|------|-----------------|-------|---|-------|----|---|---|---|--------|----|--------|----------------------------|---------|--|----|-----------------|--------|---|--------|
| 温室効果ガス等 | 供用時 | <p>廃棄物焼却施設稼働</p> <p>温室効果ガスの排出量及び削減量の予測結果は、以下に示すとおりである。 温室効果ガスの二酸化炭素換算による排出量は、59,570t-CO₂/年であり、発電による削減量が、19,959t-CO₂/年となることから、廃棄物焼却施設の稼働による二酸化炭素換算排出量は、39,611t-CO₂/年と予測する。</p> <p style="text-align: center;">温室効果ガスの排出量予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>温室効果ガス</th> <th>排出量^{注)}</th> <th>地球温暖化係数</th> <th>CO₂排出量 (t-CO₂/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ごみ焼却</td> <td>N₂O</td> <td>5.17</td> <td>310</td> <td>1,603</td> </tr> <tr> <td>CH₄</td> <td>0.09</td> <td>21</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>プラスチック焼却</td> <td>CO₂</td> <td>52,248</td> <td>1</td> <td>52,248</td> </tr> <tr> <td>灯油使用</td> <td>CO₂</td> <td>169</td> <td>1</td> <td>169</td> </tr> <tr> <td>電力使用</td> <td>CO₂</td> <td>5,548</td> <td>1</td> <td>5,548</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>59,570</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 単位は、温室効果ガスの種類に対応してt-N₂O/年、t-CH₄/年及びt-CO₂/年となる。</p> <p style="text-align: center;">温室効果ガスの削減量予測結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>温室効果ガス</th> <th>削減量 (t-CO₂/年)</th> <th>地球温暖化係数</th> <th>CO₂削減量 (t-CO₂/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発電</td> <td>CO₂</td> <td>19,959</td> <td>1</td> <td>19,959</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 温室効果ガス | 排出量 ^{注)} | 地球温暖化係数 | CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /年) | ごみ焼却 | N ₂ O | 5.17 | 310 | 1,603 | CH ₄ | 0.09 | 21 | 2 | プラスチック焼却 | CO ₂ | 52,248 | 1 | 52,248 | 灯油使用 | CO ₂ | 169 | 1 | 169 | 電力使用 | CO ₂ | 5,548 | 1 | 5,548 | 合計 | — | — | — | 59,570 | 項目 | 温室効果ガス | 削減量 (t-CO ₂ /年) | 地球温暖化係数 | CO ₂ 削減量 (t-CO ₂ /年) | 発電 | CO ₂ | 19,959 | 1 | 19,959 |
| | | | 項目 | 温室効果ガス | 排出量 ^{注)} | 地球温暖化係数 | CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /年) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ごみ焼却 | N ₂ O | 5.17 | 310 | 1,603 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | CH ₄ | 0.09 | 21 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プラスチック焼却 | CO ₂ | 52,248 | 1 | 52,248 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 灯油使用 | CO ₂ | 169 | 1 | 169 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電力使用 | CO ₂ | 5,548 | 1 | 5,548 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | — | — | — | 59,570 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 温室効果ガス | 削減量 (t-CO ₂ /年) | 地球温暖化係数 | CO ₂ 削減量 (t-CO ₂ /年) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 発電 | CO ₂ | 19,959 | 1 | 19,959 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 環境保全措置 | 評価の結果 |
|---|---|
| <p>【計画段階で配慮し、予測に反映されている環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの焼却により発生する廃熱をボイラで回収し、発生した蒸気を用いてタービン発電機により発電して、場内電力に使用し、購入電力消費による温室効果ガスの発生を抑制する。 ・余剰電力は売電し、電力会社等の化石燃料による発電量の削減に貢献する。 <p>【予測に反映されていないが環境影響の更なる回避・低減のための環境保全措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃熱は、発電のほか場内の給湯等にも利用し、燃料使用による温室効果ガスの発生を抑制する。 ・廃棄物焼却施設の設備機器は省エネルギー型のを積極的に採用する。 ・管理棟の照明や空調設備は省エネルギー型のを積極的に採用する。 | <p>① 環境の保全が適切に図られているかの評価</p> <p>新工場の供用に際しては、左記の環境保全措置を講じることから、事業者の実行可能な範囲内で対象事業に係る温室効果ガスの排出量ができる限り抑制されているものと評価する。</p> |

第11章 委託の状況等

第11章 委託の状況等

本事業に係る環境影響評価は、以下に記載の者に委託して行った。

11-1 受託者の名称及び代表者の氏名

受託者の名称：八千代エンジニアリング株式会社 総合事業本部

代表者の氏名：専務取締役 出水 重光

11-2 受託者の主たる事務所の所在地

東京都新宿区西落合2丁目18番12号

第12章 準備書に対する環境の保全の見地からの 意見の概要及びそれに対する事業者の見解

第12章 準備書に対する環境の保全の見地からの 意見の概要及びそれに対する事業者の見解

準備書を平成26年9月9日に知事へ送付したところ、平成26年9月26日から平成26年10月27日にかけて縦覧に供され、縦覧開始日から平成26年11月11日の意見提出期間内において、意見書の提出はなかった。

第13章 準備書に対する知事の見解及びそれに対する事業者の見解

第13章 準備書に対する知事の意見及びそれに対する事業者の見解

平成27年3月9日付環第1321号で通知された準備書に対する千葉県知事意見及びそれに対する事業者の見解は、以下のとおりである。

船橋市南部清掃工場建替事業に係る環境影響評価準備書に対する意見（通知）

当該事業は、既存の清掃工場の敷地内に新たに一般廃棄物焼却施設を設置し、当該施設の安定稼働後に老朽化の進んだ既存施設を解体・撤去する計画です。

事業実施区域及びその周辺地域は、工業専用地域の埋立地ですが、潮干狩りや野鳥観察、海辺の生き物の観察などを目的として、多くの人々が訪れる「ふなばし三番瀬海浜公園」に隣接しています。

また、当該事業は、1日当たりの処理能力を375トンから339トンに縮小する計画ですが、事業実施区域は、昭和48年から50年にかけて最終処分場として利用され、現在も廃棄物が埋設された土地です。

これらの状況から、当該事業の実施に当たっては、事業特性及び地域特性を十分踏まえ、事業による環境への影響を出来る限り回避・低減する必要があります。

つきましては、平成26年9月9日付けで送付のあった標記準備書について、千葉県環境影響評価条例第21条第1項の規定により、下記の事項に関する所要の措置を講じられたい。

知事意見（前文）に対する事業者の見解

本事業は、廃棄物焼却施設に求められる高次の安全性、安定性や公害防止機能、効率的な処理機能を確保した新たな焼却施設の整備を目的として、既存工場の隣接地に新工場を設置する事業です。

事業実施区域及びその周辺地域は、多くの人々が訪れる「ふなばし三番瀬海浜公園」に隣接しております。また、事業実施区域は、昭和48年から51年にかけて最終処分場として利用され、現在も廃棄物が埋設された土地です。これらの状況から、事業の実施に当たっては、事業特性及び地域特性を十分に踏まえ、当該事業による環境への影響について出来る限り回避・低減を図るため、以下の回答に示すと通りの措置を講じます。

1 事業計画にかかわる事項

計画ごみ質について、設定根拠の具体的な内容が示されていないことから、その詳細を明らかにするとともに、どの環境影響評価項目について、どのごみ質を適用したのかを明確にすること。また、実施設計までに、必要に応じて計画ごみ質の設定を見直すとともに、大気質、温室効果ガス等の予測の妥当性を検証し、新たな環境保全措置を講ずること。

事業者の見解

計画ごみ質については、学識経験者等により構成される「船橋市南部清掃工場焼却処理方式選定委員会」で妥当性を判断のうえ、「船橋市南部清掃工場施設整備基本計画」（平成24年3月、船橋市、以下、「基本計画」という。）において設定された値を用いています。

計画ごみ質は、平成19年度から平成21年度までの南部清掃工場ごみピットから採取したごみの組成調査結果から、統計的優位差検定の結果を勘案のうえ平成20年度及び平成21年度の調査結果により「ごみ処理施設整備の計画・設計要領」（社団法人 全国都市清掃会議）の考え方に基づいて設定しています。また、「基本計画」で設定された計画ごみ質の妥当性について、平成22年度から平成25年度までのデータにより確認しています。計画ごみ質の設定根拠の具体的な内容は、資料編（資1-15頁参照）に示しました。計画ごみ質により予測結果が変化する環境影響評価項目は、廃棄物焼却施設稼働による大気質及び温室効果ガス等であり、当該項目の予測においては、排出ガス量が多く影響が大きくなることが想定される高質ごみの値の適用を基本としました。また、大気質については、高質ごみに比べて排出ガス量が少なくなる低質ごみでは、有効煙突高が高質ごみよりも低くなることから、短期高濃度予測の追加予測を行い資料編（資2-32頁参照）に示しました。予測結果は、すべての項目で環境基準や指針値等を満足しており、ごみ質や排出ガス量の変動等を考慮した場合でも評価の結果は変わらないものとなります。

また、南部清掃工場において今後も継続してごみ質の調査を行うことから、これらのデータにより実施設計までに計画ごみ質の設定について確認し、予測の妥当性及び環境保全措置の内容を検証します。

鉛直遮水壁及び杭工事について、具体的な内容を明らかにし、埋設廃棄物の影響が事業実施区域外に及ぶことのない計画とすること。なお、地下水のモニタリングについては、埋設廃棄物による影響の有無を適切に把握できる観測井で行うこと。

事業者の見解

鉛直遮水壁及び杭工事については、「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」（平成17年6月、環境省）、「土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン（改訂第2版）」（平成24年8月、環境省）等に基づき、適切な対策を講じる計画です。

鉛直遮水壁は、約15mから20mの深度に位置する難透水層（第一粘性土層）まで設置します。また、杭工事は、不透水層までケーシングを設置のうえ内部の地下水と外部の地下水を遮断し、ケーシングを設置した場所の土壌の掘削除去、地下水の揚水による回収、入れ替え又は浄化を行い、不透水剤を充填します。そのうえで、ケーシングの引き抜きを行い、不透水剤を充填した場所の下位帯水層までの杭工事を行います。これらの内容について、説明のための図も添えて評価書に追記（2-33,34頁参照）しました。

なお、地下水のモニタリングについては、埋設廃棄物による影響の有無を適切に把握できる観測井として、対象事業実施区域を取り囲む4地点（鉛直遮水壁の外側）で、それぞれ第一帯水層（第一砂質土層）及び第二帯水層（第二砂質土層）において実施し（9-3頁参照）、本事業で実施する対策により影響がないことを確認します。

施工時に掘削を行う土壌及び埋設廃棄物について、区分方法、再利用又は搬出する際の安全性の確認方法及び性状に応じた処分方法を明確にすること。

事業者の見解

掘削した土壌及び埋設廃棄物の処分については、土壌汚染対策法、廃棄物処理法、「汚染土壌の運搬に関するガイドライン（改訂第2版）」（平成24年5月、環境省）、「最終処分場跡地形質変更に係る施行ガイドライン」（平成17年6月、環境省）等に基づき、適切に実施します。

施工時に掘削を行う土壌及び埋設廃棄物の区分は、廃棄物の混入がみられないものは土壌、それ以外は廃棄物として取り扱うものとし、目視により確認を行います。また、処理にあたっては、管

理番号を付帯した一定の搬出量ごとに必要な検査を実施し、管理番号・種類・有害物質濃度等を整理した識別表等を用いることにより、仮置き時、運搬時を通じて適切な管理を行います。

最終的な処分方法は、汚染土壌については特定有害物質の種類及び濃度に対応する土壌汚染対策法に基づく浄化施設で適切に処分するものとし、埋設廃棄物については管理型処分場で埋立処分するものとします。これらの内容について、評価書に追記（2-39、40頁参照）しました。

なお、汚染されていない土壌については、残土として再利用又は処分地を指定して適切に処分します。

2 環境影響評価の項目並びに調査・予測・評価の手法及び結果にかかわる事項

(1) 全般にかかわる事項

水質、土壌、廃棄物及び残土について、土地の形質変更に関する具体的な施工計画に基づき環境保全措置を検討し、予測及び評価を行うこと。

事業者の見解

水質、土壌、廃棄物及び残土については、評価書において追記（2-33～35頁参照）した土地の形質変更に関する施工計画に基づき環境保全措置を検討し、予測評価を行っています。

(2) 大気質にかかわる事項

ア 大気安定度の判定に用いる地上風速について、地上10メートルの数値に補正して予測及び評価を行うこと。

事業者の見解

大気安定度の判定においては、現地調査高さ（地上39m）の風速を用いていますが、地上10メートル相当に補正した風速を用いて大気安定度の出現頻度を算出し、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、水銀及びダイオキシン類について最大着地濃度を予測しました。

その結果、最大着地濃度は大きな値となる傾向、出現距離は対象事業実施区域に近づく傾向が見られたものの、二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の年平均値から日平均値の98%値（または2%除外値）に変換した結果では、準備書に記載した値と変わらないものとなりました。また、予測結果は、すべての項目で環境基準や指針値等を満足しており、評価の結果は変わらないものとなります。

以上の検討結果については、資料編（資2-29～31頁参照）に示しています。

イ 廃棄物焼却等施設稼働に係る大気質予測について、煙源条件として、有効煙突高及び排出ガス量が最大となる高質ごみの排出ガス諸元を用いたとしているが、ごみ質や排出ガス量の変動等を考慮し、有効煙突高が低くなる場合の予測及び評価も併せて行うこと。

事業者の見解

廃棄物焼却施設稼働に係る大気質予測について、有効煙突高が低くなる場合として、低質ごみの場合の排出ガス諸元により短期高濃度予測を行いました。

その結果、低質ごみの排出ガス諸元を用いた場合の最大付加濃度は、高質ごみの排出ガス諸元を用いた場合の最大付加濃度と比べて同等又はそれ以下の値となっており、有効煙突高が低くなる場合でも環境基準等を下回るものと予測され、ごみ質や排出ガス量の変動等を考慮した場合でも評価の結果は変わらないものとなります。

有効煙突高が低くなる場合の予測結果については、資料編（資2-32頁参照）に示しています。

（3）景観にかかわる事項

ア 調査・予測地点について、主要な眺望点が4地点設定されているが、煙突がより視認されやすい視点場や、事業実施区域の周囲の歩道など近景の視点場を追加すること。

事業者の見解

煙突がより視認されやすい視点場や、事業実施区域の周囲の歩道など近景の視点場について、現地の状況を再踏査し、景観上影響が考えられる視点場として以下の地点を追加選定し、評価書に追記（7-334参照）しました。

[煙突がより視認されやすい視点場]

- ・習志野市の茜浜緑道突端部
- ・市川市塩浜1丁目に新たに整備された展望施設
- ・浦安市の墓地公園付近の護岸部角付近

[事業実施区域の周囲の歩道など近景の視点場]

- ・主要道路である市道第09-001号線の対象事業実施区域の北西側の歩道上
- ・対象事業実施区域の南東側の船橋海浜公園バス停付近

イ 周辺地域の景観特性との調和を図るため、海辺の景観に十分配慮した施設の色彩等を再度検討して見直しを行うとともに、敷地内緑化及び柵の状況についても予測及び評価を行い、影響の回避又は低減を図ること。併せて、新工場は既存工場よりも南側に位置するため、三番瀬側から眺望する場合に影響が大きくなることに十分留意すること。

事業者の見解

海辺本来の自然色を引き立てるため、彩度の低い黄赤系の色彩を用いて落ち着いたものとし、周辺地域の景観特性との調和を図るものとししました。敷地内緑化及び柵の状況については、事業実施区域の周辺の歩道など近景の視点場として追加した地点のフォトモンタージュによる予測結果により評価を行い、柵を周辺地域との調和の図られる色彩とするなど影響の回避及び低減を図りました。

また、新工場は既存工場よりも南側に位置するため、三番瀬側から眺望する場合に影響が大きくなることに留意し、建物からの圧迫感を軽減するために敷地境界付近で緑化するなど影響の低減について配慮します。これらの内容について、評価書に追記（7-369頁参照）しました。

（4）廃棄物にかかわる事項

ア 埋設廃棄物の掘削、保管及び処分等に係る予測及び評価の結果を明らかにするとともに、特別管理廃棄物の有無を明確にすること。

事業者の見解

埋設廃棄物の掘削、保管及び処分等に係る予測及び評価を実施し、評価書に追記（7-387、388頁参照）しました。

特別管理廃棄物の有無については、現在までの調査の結果で特別管理廃棄物に該当するものは確認されていません。なお、埋設廃棄物の搬出処理については必要な検査を実施し、特別管理廃棄物に該当する際には、廃棄物処理法に基づいて適正に処理します。

イ 建設工事及び解体工事に伴う廃棄物について、可能な限り再資源化を行うとともに、熱回収を行う焼却処理などの中間処理施設の活用により、最終処分量を極力削減すること。

事業者の見解

建設工事及び解体工事に伴う廃棄物については、可能な限り分別解体等を実施のうえ再資源化を図るとともに、熱回収を行う焼却処理などの中間処理施設の活用により、最終処分量を極力削減するように努めます。

(5) 残土にかかわる事項

掘削土及び埋戻土の量について、埋設廃棄物を含まない値とし、残土の予測及び評価を行うこと。

事業者の見解

掘削土及び埋戻土の量について、埋設廃棄物を含まない値として残土の予測評価を行いました。なお、掘削する埋設廃棄物量は、現時点で想定している埋設廃棄物層の層厚（約2.3m）に埋設廃棄物層の上下の明確に土壌として判断できない部分の土壌も廃棄物として含め、これらの廃棄物として扱う層厚に対して、埋設廃棄物の掘削面積（約1,500m²）を掛け合わせることで約6,500m³と算出しており、評価書に追記（7-387頁参照）しました。

3 監視計画にかかわる事項

施工時における水質の事後調査の項目について、濁度及び水素イオン濃度のみでなく、「工事中の海域への放流排水に係る計画目標値」に掲げられた項目並びに事業実施区域において土壌環境基準及び地下水環境基準の超過が確認されているダイオキシン類を追加すること。

事業者の見解

施工時における水質の事後調査の項目については、「工事中の海域への放流排水に係る計画目標値」に掲げられた項目並びに事業実施区域において土壌環境基準及び地下水環境基準の超過が確認されているダイオキシン類を追加するものとし、監視計画を修正しました。

なお、計画目標値にダイオキシン類が含まれていなかったことから、計画目標値にもダイオキシン類を追加（2-37、9-1頁参照）しました。

施工時における土壌（地下水質）の事後調査について、電気伝導度又は塩化物イオンの測定値に変動が見られた場合は、その原因究明を行うとともに、埋設廃棄物による影響と判断された場合は、必要な措置を講ずること。また、供用時における事後調査の項目にも土壌（地下水質）を追加し、同様の措置を講ずること。

事業者の見解

施工時における土壌（地下水質）の事後調査において、電気伝導度又は塩化物イオンの測定値に変動が見られた場合は、その原因究明を行うとともに、埋設廃棄物による影響と判断された場合は、必要な措置を講じます。

また、工事完了後において、土壌（地下水質）の事後調査を行うものとし、監視計画を修正（9-2

頁参照) しました。